

♣ Glee Club



*The 86th Annual Concert*

## Doshisha College Song

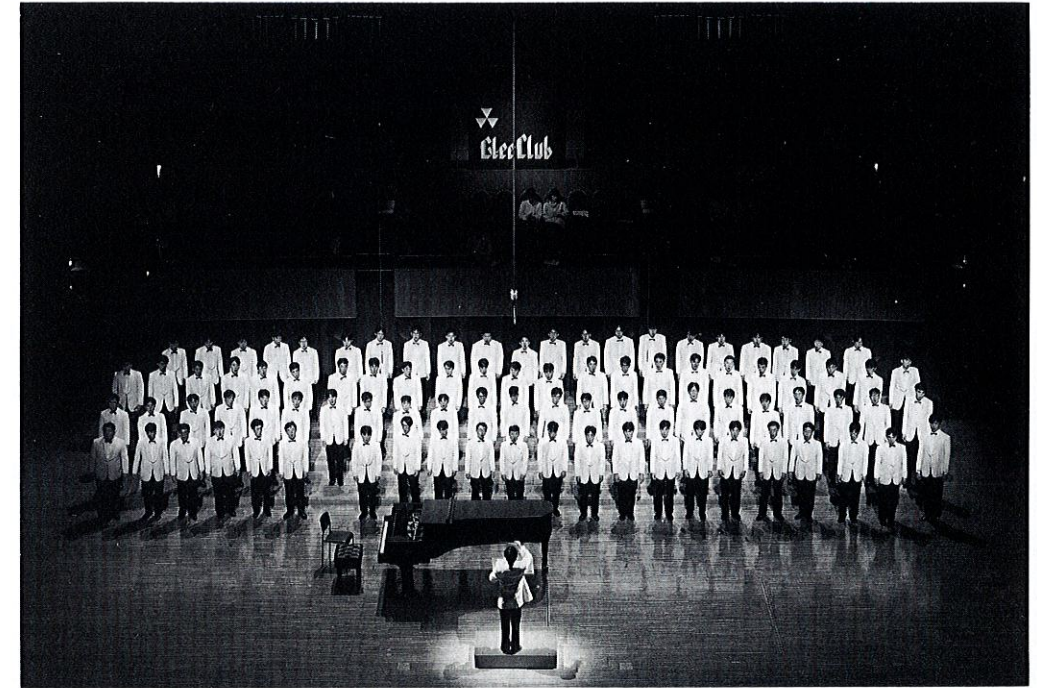
One purpose Doshisha, thy name  
Doth signify one lofty aim  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land.  
Dear Alma Mater sons of thine  
Shall be as branches to the vine.  
Th' through the world we wander far and wide,  
Still in our hearts thy precepts shall abide.

Still broader than our land of birth  
We've learned the oneness of our Earth  
Still higher than selflove we find  
The love and service of mankind  
Dear Alma Mater sons of thine  
Would strive to live the life divina  
That we may with increasing years have stood  
For God, for Doshisha and Brotherhood.



# 第86回 同志社グリークラブ定期演奏会

1990.12.18(火) The Symphony Hall



## ごあいさつ

本日はご多忙の折、私共同志社グリークラブ第86回定期演奏会にお越し下さいます。誠にありがとうございます。

今年は我がクラブにとって激動の一年となりました。四半世紀以上に亘り技術顧問として私共をご指導下さっていた福永陽一郎先生が二月に急逝されたのです。新体制に移行してひと月足らずだったあの日から私共は今日までがむしゃらに突き進んで参りました。その中で私共は悲嘆に暮れることなく学生団体として自分達自身を律しようとして参りました。今宵、一年間の総決算でありますこのステージで、新しい歴史に向かって歩み出した私共同志社グリークラブの創り出す音楽が皆様の心と一体になり、ホールいっぱい感動の渦を広げることができましたなら、この上ない幸せです。

最後になりましたが、未熟な私共を熱心にご指導下さった諸先生方、時には温かく時には激しく私共を支えて下さった諸先輩方、この演奏会を開催するにあたって御協力を頂きました関係各位に部員を代表して厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ幹事長 松田 仁

同志社総長 松山 義則



今年も同志社グリークラブの定期演奏会が音楽を愛される多くの方々の御出席を得て開催されますことを、心からうれしく存じます。

輝かしい伝統をもつ同志社グリークラブは、献身的な諸先輩の努力によって築きあげられました。団員の諸君はこのすばらしい伝統を受け継ぎ、さらなる発展を期して日々研鑽を積み、皆様のあたたかいご支援をいただいておりますことは大きなほこりと存じます。

人は歓喜のとき、また悲哀のとき、祈りにあるとき、その感情が高まってくると、共感する仲間と歓びの気持、悲しみの気持、あるいは神の愛を讃える心を分かち合い、声をあげてたしかめ合うことが自然のようであります。合唱音楽のみならず、これこそ人間性にあふれた行為であると思います。現代における合唱音楽は、美しい旋律と豊かな表現によって、人間の感情を心ゆくまで昇華し、聴くものにも大きな共感を呼び起させます。

本日の定期演奏会は、この一年間の総決算ともいべきもので、一年間の努力の成果を披露する場です。グリーの諸君はすべての情熱を傾けて力いっぱい歌いあげるでありましょう。すばらしい演奏となることを期待したいと思います。

どうか皆さまには同志社グリークラブの演奏に心耳を傾けていただき、今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

同志社グリークラブ顧問 澁谷 昭彦



もう一昔もふた昔も前のことだが、ある外国人の先生がグリーを歌うのを聞いて、驚いたことが二つあると言われた。一つは、学生が指導をしているということと、もう一つは、学生らしい歌をあまり歌わないということであった。その先生のお国では、指揮は音楽学部の先生がするもの、学生は学生歌 (college songs) を中心とした歌を歌うものというのが、常識のようであった。

指揮者については、最近では、どの大学のコーラスも専門家の先生を迎えるようになった。その結果、基本的な訓練がなわれ、発声がよくなり、技術が向上した。表現力に幅が加わり、大曲、難曲の演奏も不可能ではなくなった。

一方、学生らしい歌の方だが、日本の場合は、何か学生らしい歌といえるのだろうか。応援歌、寮歌などといっても、数えるほどしかない。第一、応援歌、寮歌だけでは、演奏会にならない。学生歌だけで230ページをこえるその先生の出身大学の歌集に比して、中学高校を含めた全同志社の歌集ですら60ページに満たない。どだい、歴史がちがうわけである。

日本の大学のコーラスは、常にトップクラスの合唱団であることを要請されている。特に、グリーの場合は、そのことを意識せざるをえないような立場にあり、それは、それなりに一つの励みである。しかし、何事も学生が目立つのは、その分野の後進性の現れであると言われていた。したがって、日本の合唱界全体からすれば、学生諸君の負担が軽くなり、もっと気楽に歌えるようになってもらいたいのだが、そうとも言うておられず、当分は、まだまだ頑張ってもらわなければならない模様である。

同志社グリークラブOB会会長 松本 寛二



「力強い合唱に期待」

四月のイースター音楽祭で、ベートーベン唯一のオペラ「フィデリオ」をザルツブルグで見た、いや聴いた時、これこそ、真の「男声合唱」だ、と感動した。オケもコーラスも全てゲバントハウス、指揮は、昨秋、日本でベートーベンチクルスをやったクルト・マズア、相変わらず棒はもたない。二つの手と十本の指が、小さく動くだけなのに、なぜ、あんな豪快な合唱が生まれるのか、とくに、第二幕に出てくる「囚人の合唱」には参った。あの不自然体から、どうして、あんな声が出るのか恐れ入ったものである。

日頃、ステージで、直立して歌う合唱しか見ていない私にとっては、正に驚きであったのだ。さて、きょうは、その直立姿勢によりグリーの合唱だ。オペラではないし、当然のことだが、せめて、最高に、のびのびと歌いまくってほしいものだ。いまのグリークラブならそれが出来るんじゃないか!!。

第86回目の定演に、新しい合唱、そして、豪快さを期待しながら、この日を楽しみにしている。

定演、本当におめでとう。

関西学院グリークラブ

第86回同志社グリークラブ定期演奏会の御開催を部員一同、心よりお祝い申し上げます。

私共にとって貴団は、東西四連、同関交歓演奏会、関西六連という具合に共有するステージが最も多く、また距離的にも近い存在にあり、良きライバル、良き友であります。そんな良きライバルの貴団の歌声を拝聴できますことは、私共関学グリーメンにとりましてこの上ない喜びでございます。

貴団の常に向上心を持って演奏会にのぞまれる姿勢には敬服すべきものがございます。今宵も、一年間の皆様のたゆまぬ努力の成果が遺憾なく発揮され、私共の心を酔わせて下さいますことを期待致しております。

最後になりましたが、本日の演奏会の御成功と、皆様の今後一層の御発展を、部員一同心よりお祈り申し上げます。



早稲田大学グリークラブ

第86回定期演奏会を迎えられます皆様に、心よりお祝い申し上げます。

冬の訪れが確かなものとなり、肩をすくめて歩く人々が目につくこの季節に、皆様の心暖まるハーモニーの世界に浸れますことは、この上ない幸せでございます。ある時は荘厳で重厚な響きで私達の心を圧倒し、またある時は柔らかく暖かい響きで私達を包んでくれる皆様の歌声は今宵もまた生き生きと、ホールいっぱいに広がってゆくことでしょう。90人も心が、ある瞬間一つになってつくりあげる音楽は、必ずや人の心を揺さぶらぬにはおきません。そのような皆様の歌声を今日は心ゆくまで楽しませていただけることと確信しております。

最後に、今日の演奏会が、すばらしいものとなりますよう、お祈り申し上げます。



慶應義塾ワグネル・ソサイエティ男声合唱団

同志社グリークラブの皆様、第86回定期演奏会の御開催を心よりお慶び申し上げます。

四連でのデュオパの「荘厳ミサ」の素晴らしい演奏がまだ昨日のことのようによろしく思えます。また、四連の際には大阪で大変お世話になり、私達の大阪定演のお手伝いをして頂き、大変感謝しております。皆様の温かい心と高い志に支えられたハーモニーが、聴衆を魅了してやまないと信じております。

そして、我々の心と心の絆である四連も40周年を迎えようとしています。そのためのビッグイベントを部員一同楽しみにしております。これからも良きライバルとして、楽しい酒飲友達としていましょうね。

最後に、卒団生の方々が今宵の演奏会を大きな飛躍へのステップとし、はばたいていかれることを、そして貴団が益々、御活躍、御発展されますことを心よりお祈り申し上げます。



## DOSHISHA COLLEGE SONG

作 詩/W. M. Vories

作 曲/Carl Wilhelm

### I. 「From The Sunny South」

～A Choral Suit on The Songs of Stephen Foster～

1. My Old Kentucky Home
2. De Camptown Races
3. Beautiful Dreamer
4. I Dream of Jeanie
5. Old Folks at Home
6. Oh! Susanna
7. Old Black Joe

作 曲/S. Foster

編 曲/福永陽一郎

指 揮/竹内 正

ピアノ/山本 優子

### II. 「ドイツオペラ男声合唱名曲集」

1. 僧侶の合唱～作曲/W.A.Mozart『魔笛』より～
2. 囚人の合唱～作曲/L.V.Beethoven『フィデリオ』より～
3. 狩人の合唱～作曲/C.M.V.Weber『魔弾の射手』より～
4. 巡礼の合唱～作曲/R.Wagner『タンホイザー』より～
5. 水夫の合唱～作曲/R.Wagner『さまよえるオランダ人』より～

指 揮/佐々木 修

ピアノ/戎 洋子

## — INTERMISSION —

### III. 男声合唱組曲「富士山」

1. 作品第壹
2. 作品第肆
3. 作品第拾陸
4. 作品第拾捌
5. 作品第貳拾壹

作 詩/草野 心平

作 曲/多田 武彦

指 揮/浅井 敬壹

### IV. 「ZIGEUNERMELODIEN」 Op. 55

—ジプシーの歌—

1. Mein Lied ertönt (わが歌ひびけ)
2. Ei, wie mein Triangel (きけよ! トライアングル)
3. Rings ist der Wald (森はしずかに)
4. Als die alte Mutter (わが母の教えたまひし歌)
5. Reingestimmt die Saiten (弦を整えて)
6. In dem weiten, breiten, luft'gen Leinenkleide (軽い着物)
7. Darf des Falken Schwinge (鷹は自由に)

作 詩/A. Heyduk

作 曲/A. Drorak

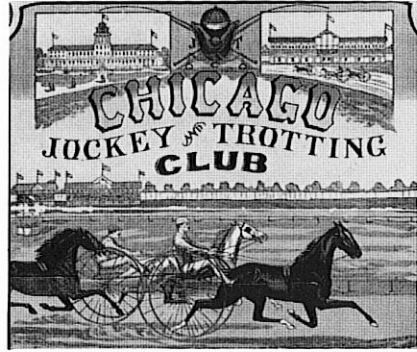
編 曲/福永陽一郎

指 揮/畑中 良輔

ピアノ/長田 育忠

# 「From The Sunny South」

～A Choral Suit on The Songs of Stephen Foster～



## Stephen Collins Foster

アメリカに生れ、アマチュア音楽家で独学で音楽を修めた。彼は農園主として南部の近辺の黒人たちの間で暮らしたが、北部の大都市とも関わりを持っていた。彼の約200曲にのぼる歌曲（その中には多数のニグロ・ミンストレル・ショーのための曲がある）には、《ケンタッキーのわが家》、《オールド・ブラックジョー》、《故郷の人々（スワニー河）》、《主人は冷たい土の中に》等がある。

これらの作品のおかげで、彼はほとんど想像もつかないような人気を獲得した。だが、それらの作品はヨーロッパで考えられているほど容易で月並なものではない。それどころか、自然とのたおやかな結びつきを通して浮かび上がるそれらの曲の感傷性、原始的な活力に満ちたおどけた発想は、アメリカの心の最も深いところにあるもの、すなわちこの国の歴史、過ぎ去ったもの、失われたものに対するノスタルジーに強く結びついているのである。それが、我々の心の琴線にふれるのであろう。



## 第59代学生指揮者 竹内 正

1967年大阪生まれ。中学より合唱に親しみ同志社香里高校卒業、大学入学と同時にグリークラブに入部。フェアウェルコンサートの「柳河風俗詩」でさっそうとデビューし、今年も好調を持続するグリーのけん引力である。夏の演奏旅行、先の関西六連でもその指揮ぶりは好評を集め、「楽しい合唱」の実践に努める姿に部員の信頼も厚い。就職も指揮も堅実に歩を進めてきた彼のグリーライフの集大成が、今、花開こうとしている。

### 〈メッセージ〉

#### 「永遠なる一瞬」

誰も生きていく中で、「永遠なる一瞬」を感じる事がある。それはごくわずかな時間の出来事であるにもかかわらず、その一瞬の出来事が人の人生、さらには人類の歴史を永くとどめられることである。

音楽とはまさにこの「永遠なる一瞬」を探求する芸術ではないだろうか。他の芸術が空間を表現するのに対し、音楽は時間を表現する。その時間の表現において演奏者のメッセージが聴衆と共有された時、両者の間に感動が生まれ、それが「永遠なる一瞬」となって心の奥に刻まれる。

我々同志社グリーも日々この「永遠なる一瞬」を探求している。それぞれ違った人生をもち、皆が個性的なこの集団も、一つの音楽を創り上げていく過程で一体となる。この一体となった時こそが「永遠なる一瞬」であり、その時の音楽はまさに心の琴線にふれるものである。今宵は是非、グリーメン95名の意志が一つになる瞬間を感じていただけたら、と願っている。

## スティーヴン・フォスターの歌曲とその編曲

福永 陽一郎

Stephen Collins Foster は、アメリカのペンシルヴァニア州ピッツバーグ近郊のローレンスウィルに1826年に生まれ、1864年に、ニューヨークで没した作曲家である。（名前のStephenは、なぜかスティーヴンと読む）年代は少しずれるけれども、若くして病没したこと、美しいと同時に親しみぶかい歌曲を多く作曲したというので、しばしば「アメリカのシューベルト」と呼ばれる。たしかに40曲にのぼる名作歌曲は、美しさと愛らしさ、親しみ易さと忘れ難い深い印象などで、シューベルトの《野薔薇》《子守歌》《セレナーデ》《菩提樹》《罌》といった名曲に匹敵する内容と価値を評価されてよいものであるが、シューベルトが、交響曲をはじめ、音楽の広い分野で数々の作品を作曲したことを思えば、歌曲しか作曲しなかったフォスターは、比較にならない小作曲家である。

筆者は、アメリカで出版されたフォスターの歌曲集で、それぞれの曲が最初に世に出たときの初版の表紙をたんねんに集めて収録した貴重な楽譜を所有しているが、その表紙のなかには、欧米の楽譜によくある「近刊カタログ」を兼ねたものがあり、そこには、現在まったく知られていないフォスターの作品のタイトルが、数多く記述されていたりする。小作

作曲家といえども、フォスターは、いま、われわれが承知している曲より数倍の作品を作曲したらしい。それはそうであろう。19世紀から20世紀を通じて、アメリカのみならずわれわれ日本人にまで広く膾炙し愛唱されている珠玉の名作を、ただそれだけ作曲したのであれば、その天才はまことに驚嘆すべきであるとしても、それのみでは、作曲家として生計を立てるわけには、いかなかったであろう。フォスターの貧乏ぶりは、伝説的伝記ものがたりに詳しく書かれているものの、作曲以外の職業についたことはないのである。

スコット・ジョプリンの代表される「ラグタイム」にはじまり「スウィング・ジャズ」にいたるアメリカのポップ歌曲の隆盛より、かなり以前の時代ではあったが、フォスターも、もともと「ヒット・ソング」を幾つも作曲していたのであるから、著作権や楽譜の版権が確立した時代であったならば、もっと裕福になれたに違いない。それだけの仕事はしていたのである。

フォスターの歌曲は、もともと「ミンストレル・ショー」のために作曲されたものもあって、オリジナルがすでに、リフレインをコーラスでうたうように書かれていたこともあり、また、その様式の簡素な点や民謡にちかい形態からいって、

かなりの以前から、合唱用に編曲されることが多かった。20世紀後半の今日でも、アメリカの合唱界を代表するロバート・ショウやロジェ・ワグナーといった第一人者が、すぐれた編曲を残し、レコードにも録音している。

日本でも、合唱という演奏形態がはじまって以来、種々の編曲がなされ、出版されたものも数多く存在した。かくいう筆者も、合唱および合唱の編曲に興味をもって以来、何度となくフォスター作品の合唱化に手をつけてきた。

本日演奏する編曲は、筆者の30年ほど前の「旧作」であるが、1956年の初めての渡米の帰路、現地アメリカで収集した資料にもとづいて、20日間の船旅のうさばらしに、太平洋上のキャンピングで執筆した、筆者としては、フォスターの総集決定版の意味を持った編曲であった。当時のプロフェッショナル男声合唱団「東京コリアーズ」によって演奏されたものである。

合唱団によるこぼれる曲、聴衆に歓迎される曲という、指揮者としての筆者の近來の選曲方針から、久方ぶりにリヴァイヴァルして演奏することになった。単なる「フォスター名曲集」というより、アメリカ南部のムードを強調した編曲になっている。

### 「演奏にあたって」

「うた」とは人間の気持ちそのものだ、と思います。歌いたくない時に無理やり歌わされている歌はとても聴けるものではないでしょうし、また歌の意味がわからずに歌っている歌も、たとえそれが名曲であったとしても、心を打つことはないと思います。しかし、本当に何かを表現したくて、伝えたくて歌っている歌は、たとえ音程が少しズレていようとも、声がへんな声であろうと、心がふるえるものです。

今宵は皆様にも親しみのある、かつ感動をよびおこすフォスターの歌曲を演奏いたします。音楽的にも極めて平易で、また今さら意味を見なおす要もないフォスターの歌曲の演奏は、我々グリーメンの気持ちに全てかかっているといえます。今宵は是非グリーメンの「うたごころ」をおくみとり下さい。



# 「ドイツオペラ男声合唱名曲集」

ドイツオペラ男声合唱名曲集～徒然なるままに～

佐々木 修

「今年のオールスターでは中日の落合さんの、ベンチからバッターボックスに立つまでの姿や呼吸を是非見たいと思っています。」

この、あるTVのインタビューにアッサリと答えた西武の清原選手を、「おぬしやるな!!」と思った方は一流の舞台人です。舞台上立つ人間にとって、この舞台の袖から真中までどう云う風に歩くか呼吸をするかで、実はすべてが決まるんです。これを力まずアッサリと、しかし自然にこれから始まる音楽や芸を想像させてくれたら一流です。そして今回の舞台でこの奇蹟に果敢にも挑戦するのが同志社グリークラブです。なにしろわずか20数分のこのステージの間に、僧侶→囚人→狩人→巡礼者→水夫→幽霊と、一人二役どころか一人六役、これではほとんど精神分裂症です。みなさんご存知の様にオペラはその物語の一員として舞台上立つわけですから、コーラスといえども当然僧侶ならそれなりの衣装をつけて化粧もします。(これが結構病み付きになります)ですから、普通オペラの開演2時間前には楽屋入りして、あだこうだとやっているわけです。しかしこの2時間がとても大切なんです。つまり20世紀の後半に生きるごく平凡な、さっきまでカップラーメンを食べて少年ジャンプを読んでいた男の子達が、(多分今日の舞台にもたくさんいるはずです。) ことあるうちにドイツからローマにほとんど飲まず食わずで、ボロボロになりながら何年もかけて、勿論歩いて旅する巡礼者の格好になるのに2時間、もっと正確に云うと、今日歌うワーグナーのタンホイザーより巡礼者の合唱は、ローマ巡礼からの帰り、それはアルプスを越え途中で命を落とす人も数知れないほどの道ですが、身体はほとんど極限にまで疲労し、しかしローマで罪をあがない幸福に歌うのがこの曲なんです。ですからタンホイザーというオペラが始まってから2時間後、第3幕になってようやく歌われます。つまりあのカップラーメンの少年が楽屋入りしてから休憩を入れて5時間かかるわけなんです。そして次のオペラ、たとえば今度はオランダ人の水夫になるためには前のオペラの衣装を脱いで、化粧を落として、ごはんを食べて、寝て、起きて、またごはんを食べて、楽屋入りして、つまりまる一日かかるわけなんです。先ほど奇蹟と書きましたが、それは一つの役からもう一つの役を歌う人間に変わるのに最低一日かかるこの時間を、わずか20秒ほどの曲間でつぎつぎ歌うこの困難さ無謀さを理解して下さい。



W. A. Mozart

無謀と云えば同じくワーグナーのさまよえるオランダ人より水夫の合唱は、まったく無謀です。なにしろ前半のノルウェー船上での水夫の飲めや歌えのドンチャン騒ぎから、一転して後半はノルウェーの水夫とオランダの幽霊の船員との掛け合いを一人で両方一緒にやっています。ノルウェー人とオランダ人を見分けるのはこの極東に住む我々日本人にとってほとんど不可能ですが、今日このシンフォニーホールにいらっしゃるみなさんは、きっと飲んだくれた水夫と幽霊の違いを見分け聞き分けて頂けるものと思います。

さて、この水夫の合唱と同じグループに属する音楽に、ウェーバーの魔弾の射手より狩人の合唱があります。ちょっと大げさですが音楽の起源は何かという学説の一つに、労働と狩猟から始まったと云う考えがあります。つまりみんなで大きな獲物を倒すとき、絶対に必要なのがグループ全体の呼吸やリズム感の一致です。これは大きな船を動かすときも同じです。獲物を見事仕留め、領主の前で、そして若い女の子の前で誇らしげに歌うこの合唱、女子大の女の子の熱い視線を感じて今日ここに燃える同志社グリーとだぶらせて見えるのは僕だけでしょうか。

さてこのステージのプログラムの中で一つだけ例外的な曲があります。それはベートーベンのフィデリオより囚人の合唱です。実はこの曲だけは声を出してはいけない合唱なんです。ここで囚人は自由と正義を主張することによって牢獄に入れられた政治犯です。何か月ぶりに地下牢から刑務所の中庭に出てまず目に入った太陽の眩しさの中から、自由と幸福という言葉が思わず口に出ます。しかしけっして大きく叫ぶことは許されません。厳しい看守の目を感じた心の中にこの言葉を

かみしめるばかりです。この自由と正義を信じる囚人が開放されるのはあと一時間以上経ったこのオペラの最後、レオノーレの献身的な活躍により刑務所での所長ピツァロの悪事が裁かれてからです。この自由と正義を訴える曲がもう一曲あります。それはこのステージの最初に歌われるモーツァルトの魔笛より僧侶の合唱です。この僧侶はキリスト教のそれではなく、フリーメーソンの僧侶です。このフリーメーソンですが、18世紀後半モーツァルトの頃はごく普通の、今でいうとロータリークラブやライオンズクラブといった団体で、たとえばザルツブルクの司教やあのゲーテだって入っていたんです。この会は宇宙の偉大な建築者を信じる人間の徳を説き、未来社会の幸福をのぞむ結社でした。ここで僧侶は万物の神に祈願しながら、魔笛の主人公の一人タミーノ王子が試練に打ち勝ち、最終的な勝利を預言します。

おしまいに、このステージで歌われる曲はすべて名曲中の名曲、男声合唱の珠玉の曲ばかりです。したがってみなさんのお気にめさないときは僕の責任です。ドイツロマンの真髄であるこれらの曲を平成ロマンに燃える同志社グリーが歌い上げます。どうぞお楽しみ下さい。そして曲間の20秒にどうぞ注目して下さい。



L. V. Beethoven



客演指揮者 佐々木 修

武蔵野音大を卒業後、オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルト音楽指揮科にオーストリア政府奨学生として学び、ヘルベルト・フォン・カラヤン、ゲルハルト・ヴィンベルガー両氏に師事。79年、ベルリンに於ける国際カラヤン指揮者コンクール4位入賞。81年モーツァルト音楽大を最優秀で卒業、同年より同大指揮科講師、同大オーケストラ常任指揮者として多数のオペラ・コンサートを指揮、また同時にドイツ・オーストリア各地で客員指揮(ベルリン放送祭、国際モーツァルト週間82'、83'など)83年には国際モーツァルト財団よりバウムガルツナーメダルを授与。

84年帰国後、読響、群響、京響、大阪シンフォニーなどを指揮、また、この春まで関西二期会の音楽スタッフとしても活躍する一方、東京、名古屋、大阪のアマチュアのオーケストラ、合唱も精力的に指揮している。さらにNHK・FM「シンフォニーコンサート」や大阪FM802「フロム・ザ・サントリーホール」(日曜朝7〜8時)などのDJとしても大変注目されている。

さらに今秋には700名を超える候補者の中からテレビ東京のパーソナリティーに選ばれ、今後の各方面での活躍が注目される。

## 〈定期演奏会によせて〉

「最近読んだ本の中で感銘を受けた本は国語辞典です。」と答えたら、「また受けを狙って…」という様な声が返ってきた。でも本当にそうなんです。何気なく僕達が普段使っている文化という言葉为国語辞典で調べていたら、その何番目かの意味で「人間が一定の目的にしたがって理想を実現していく過程」と云う文が目にとまりました。この過程と云うくぐりがえらく気に入ったんです。僕流の解釈ですが、つまり文化とはその結果ではなく、人が夢を持ってそれを前向きに実現しようと努力している姿そのものなんです。ですから文化は音楽や文学だけに限らないはず。ちょっと嬉しくなりました。

2090年12月18日ある少年がコンピュータに問いかけます。「文化っていったい何ですか?」

コンピュータが内蔵の国語辞典を調べて答えます。「文化とは同志社グリークラブのことです。同志社グリークラブに入りなさい…」

バックには1990年12月18日シンフォニーホールで演奏された同志社グリーの巡礼者の合唱の歴史的名演が流れています…。

まさかそんなことと想像していらっしゃる皆さん、いや夢を持って努力していたら……きっと……。



C. M. V. Weber



R. Wagner



## 「ZIGEUNERMELODIEN」 Op. 55

## —ジプシーの歌—

## ドボルジャークとジプシーの歌

チェコ民俗の物語や民謡を聞きながら育ったドボルジャークは、19世紀中頃、ヨーロッパ全土に渡って巻き起こった民族主義運動の中でも、とりわけ重要な位置にあったし、スメタナと共にチェコ国民音楽を築いた人でもあった。彼のオペラに対する憧憬には、特別なものがあり、幾度か歌の作品にペンをとったことも忘れてはならないであろう。最初の交響曲を作曲した翌年には、自分の初恋による喜びや悲しみといった内容で歌曲集《いとすぎ》を書いているし、オペラを9曲も作曲している点からみても明らかであろう。

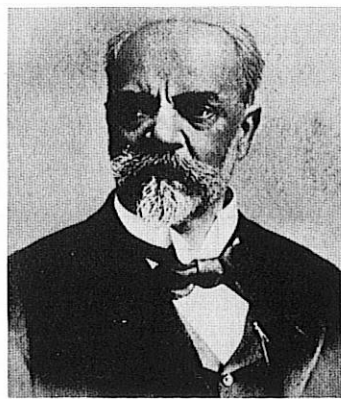
彼の音楽は純真であり、本能的であり、素朴であった。そしてそれは、彼そのものであり、その表現の手段には豊かな音色や、味わい深い民族的旋律や古典的な構成が用いられている。

《ジプシーの歌》は、彼の作風の凝縮といっても過言ではなからう。これは1880年にウィーンの宮廷歌手、グスタフ・ヴァルターのために書かれた7曲からなる歌曲集で、ドボルジャークが39歳の頃の作品である。

「ジプシー」という標題が置かれているものの、全くチェコ的な音楽といえる。衝撃的な前奏で始まる第一曲「我が歌響け」で、この曲集に対する興味は完全に惹きつけられ、第三曲では、ドイツ・ロマン派の甘い響きが顔を出し夢幻的である。第四曲は、メランコリックで、誰もが郷愁をそそられる。この第四曲に関しては、ヘルマン・クラインが描いたものが残っている。「ドボルジャークは純真でした。彼の黒い、人を射るような眼が微笑で輝くことはありませんでした。……エドワード・ロイドが『我が母の教えたまいし歌』を歌った時、彼は頬の涙をそっと拭っていました。」というものだ。これにより、ドボルジャークがこの第四曲にどれだけの思いを込めたかが、計り知れよう。

又、この詩は、詩人アドルフ・ヘイドックが民謡に基づいて自分でドイツ語に訳したものであるが、恋と自然を自由に歌っていて素朴である。しかし、その中には「誠実」や「皮肉」が影を落としている。

そして、ピアノ伴奏部のところどころに民族楽器の効果が施されていたり、チェコの民族舞踊のリズムがとりこまれていたりして、大変民族色豊かな作品となっている。



Antonin Dvořák (1841~1904)

彼は肉屋兼宿屋の息子として、チェコに生まれ、家業を継ぐため修業を始める一方、ズロニツェの町のオルガン奏者から最初の音楽の手ほどきを受けた。1857年、父の反対を押し切ってプラハのオルガン学校に入学。(同時にオルガン奏者、ピアノ奏者としての基礎的な学校教育を受ける。又、ピオラ奏者としてコムザークのオーケストラに入り、ダンス音楽や、レストランでの演奏も経験した。)

スメタナが創立した国民劇場管弦楽団に1862年にピオラ奏者として入団、彼の作品に感化された。特に最初のチェコ国民音楽の手本とされる《売られた花嫁》から

強い影響を受けた。以後国民的音楽家としての彼の役割を信じ、国民賛歌《白山の後継者たち》によって作曲家として最初の成功を収めた。また、奨学金を得てウィーンに行って学んだが、そこでブラームスの知遇を得た。ブラームスは、彼のために、出版社や指揮者に紹介する等数々の援助を差しのべている。

1879年以後、9回にわたってイギリスを訪れ、この国で数多くの自作の演奏を手がけた。《交響曲第7番》は、ロンドン・フィルハーモニー協会の依頼で作曲している。1892年から1895年にかけて、ニューヨーク音楽院で指導にあたった。この間に、《交響曲第9番》などの最も知られた作品がかかっている。



客演指揮者 畑中 良輔

東京音楽学校卒業。宮廷歌手ヘルマン・ヴァーハーベニヒ博士に師事。リリックな声を持ち、その音楽的解釈力の深さと卓越した演技力は、デビュー当時より高い評価を受けてきた。特にオペラではモーツァルト歌手として第一線に立ち、「魔笛」のパパゲーノ、「フィガロの結婚」のフィガロをはじめ、モーツァルトのオペラの本邦初演の主役のすべてをつとめた。イタリア、フランス・オペラでは、世界的名歌手、タリアヴィーニと「ボエーム」「ウエルテル」、ゲルハルト・ヒュッシュと「ドン・ジョバンニ」などを共演し、オペラ上演史に輝かしい記録を残した。歌曲ではドイツ歌曲・日本歌曲に造詣深く、特に日本歌曲のプログラムで全国縦断連続リサイタルを行い、啓蒙の役割を果たしたことは特筆に値する。又作曲の面では抒情的な歌曲作品が多く、「畑中良輔歌曲集」が全音楽譜より出版されている。評論の面では30年にわたり朝日新聞の音楽評を書き続け、「演奏家的演奏論」「演奏の風景」「朝日試聴室」などの著書がある。また教育者としては、弟子の多くのすぐれた音楽家が、日本はもとよりヨーロッパでも第一線の歌手としてオペラ、歌曲に活躍している。日本演奏連盟常任理事、全日本合唱教育研究会会長、日本音楽コンクール運営委員をはじめ、多くの役職をつとめ、文部省の教育課程審議会の重責をも担っている。東京芸術大学名誉教授、慶應義塾大学特選塾員、昭和60年紫綬褒章受賞。

## 《本夕に寄せて》

「同志社グリークラブ」の定期演奏会を振るのは、はじめての事です。もう20年以上も前、野尻湖の合宿に陽一郎君に連れていかれ、発声の理論と実際のトレーニングをやった事がありますが、その時東西四連の合同のため、二度ほどグリーの稽古場に通っただけです。しかし、昨年の四連の各校での練習めぐりの時の同志社の、火と燃えるような情熱そのものの練習ぶりには、心打たれるものがありました。

学生合唱にぼくを引張りこんだのは陽一郎君です。その時、陽一郎君は学生の音楽に対する情熱の純粋さ、真剣さについて、ぼくに語り続けました。おかげでぼくも今年をもって、学生合唱にかかわりはじめて30年になります。陽一郎君のその妥協のない音楽への姿勢が、同志社グリーメンにも今なおひしひしと感じられるのです。

陽一郎君の死はあまりに唐突で、この定期の1ステージを、ぼくが指揮台に立つことになりました。ぼくのうしろから陽一郎君の声がきこえて来そうです。「グリーメンの一人一人の心の中を、熱い音楽で充たしてね。」

天の彼方の陽一郎君の耳にまで届くよう、みんな心いっぱい「ジプシーの歌」を歌い上げて下さい。陽一郎君が遺した編曲のうちで最もすぐれたものだと思います。





ヴォイストレーナー・大久保昭男

プロフィール

1953年、東京芸術大学声楽科卒業。  
矢田部勤吉氏に師事された。デビューは近衛秀  
磨指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」  
のモラレス役で、以後、山田耕祥指揮のオペラ  
「黒船」、ドヴォルジャークのオペラ「ルサルカ」  
などにも出演された。そして、1959年には、  
ドイツ・リート、日本歌曲による第1回リサイ  
タルを開かれた。

現在、昭和音楽大学短期大学部教授として教  
鞭をとられる一方、慶應義塾ワグネル・ソサイ  
エティー男声合唱団、上智、立教、明治、関西  
学院、同志社の各グリークラブ、早稲田コー  
ル・フレッシュ、法政アカデミー等のトップクラ  
スの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、  
関西で幅広く活躍されている。



メッセージ

今年の夏は例年になくとても暑い夏の日が長く続き、いつ秋が来るのか  
と思っている中にとっても紅葉し、すぐに冬になって、定期の時期がまたやっ  
て来ました。

長い間私と一緒に同志社グリーを見守って来て下さった福永陽一郎先生  
が天国にゆかれ、私たち合唱の好きな連中の中から、大きな一人がぬけら  
れて、本当に残念な気持ちで一いいます。私は心から合唱を愛された先輩  
でありながら「陽ちゃん」といつも呼んで友人の様に付き合っていて一緒に音  
楽の勉強をさせて頂いていました。陽ちゃんは「純粋すぎる芸術家」だっ  
たのです。身近にいたものは必ずわかっていて驚きです。

さて8回目(陽ちゃんの天国ゆきのため、私の尊敬する畑中良輔先生  
が本当にお忙しい中グリーを指揮して下さい、またOBで合唱演奏で数え  
きれない最高賞をいつもとっていられた浅井敬彦先生をお迎えし、陽ちゃん  
んじきあとの第86回を今から楽しみにして居ります。きっと陽ちゃんも  
天国から来て、ホールのごくで喜んで聴いてくれていることでしょう。

この第86回定期演奏会をみんなの素晴らしい音楽の力で悲しみを喜び  
に変える様に心から歌って下さることを願っています。

ピアニスト・山本 優子

プロフィール

同志社女子大学音楽学科ピアノ専攻卒業。ピ  
アノを吉田輝子、福本俊之の両氏に、和声学・  
作曲法を藤井園子氏に師事。

同志社グリークラブの'79中国演奏旅行、  
'83ヨーロッパ演奏旅行、同志社グリーOBの  
クローバークラブ'87ハワイ演奏旅行にピ  
アニストとして同行する。

1981年夏、西ドイツ・デトモルト音楽院  
にてピアノをW・シュマー教授に、伴奏法を  
H・ユンク教授にレッスンを受ける。現在もオー  
ケストラとの共演をはじめ、合唱や室内楽のピ  
アニストとして広く活躍されている。



メッセージ

今日このステージに立って、というより今日を迎える練習の  
時から、2月10日にお亡くなりになった福永陽一郎先生の事が頭  
から離れません。陽ちゃん先生と御一緒にあつたという間の  
15年間でしたが、指揮者であり、又ピアニストでもいらした先生か  
ら音楽の作り方、楽しみ方や厳しき等々だ事は数多くあります。又  
我が家の楽譜棚に並んだかなりの量の先生自筆の楽譜を見ると、御  
自身のアレンジによる曲を何度かステージで御一緒に、楽しかった  
時の事を思い出します。何物にもかえ難い数々の思い出をこれから  
も大切にしていきたいです。この20世紀末、主人(京都市交  
響楽団奏者)達も度々マラーの作品を公演していますが、これか  
らの音楽が、いや音楽家達がどこにどの様に流れていくのか、との思い  
と同じ様に、同志社グリークラブもこれから21世紀に向けて歴史  
のレガをどの様に積み上げていくのか、今こそ伝統に裏付けされ  
た底力で多くの人々の心をつた感動的なステージを…と願っています。

ピアニスト・戎 洋子

プロフィール

相愛大学ピアノ科卒業。1977年大阪府民  
劇場奨励賞受賞。母校の相愛大学の講師として  
後進の指導にあたるかわら、オペラ室内楽等  
の伴奏者として幅広く活躍している。特に、オ  
ペラにおける造詣が深く、関西歌劇団、関西二  
期会等のオペラローベでは名伴奏者として著  
名であり、その秀逸なるアンサンブル感覚は他  
者の及ばぬものがある。現在、相愛大学講師。



メッセージ

「合唱って、となりの人と、そのまたとなりの人と、前の人  
とも同じ声出して、ちょっと遠くの人とは違う音でひびきあっ  
て、そのうえ、気持ちまで同じように感じて…  
あー、そんなのはむつかしすぎる。だってその日のその時間  
にみんなと同じ気持ちになるなんて、とてもじゃないけど約束で  
ない。自信もないし、それになんだかめんどうくさい。小さな  
針の穴に100人で糸を通すようなもの。」  
歌の下手な私は、こんな風に考えてしまう。すばらしい合唱が  
できるとしたら、それは、神様のちょっとした気まぐれの贈り  
物。それだって、そんなに簡単にプレゼントされない。そう思  
いながら、いつもピアノの前に座っている、オペラの稽古場で、  
ステージで。それでもときどき針に糸が通ることがある。人間  
の声って羨ましい。ピアノの前で私はとても幸せになる。今日、  
神様からのすばらしい贈り物が届きますように!!

ピアニスト・長田 育忠

プロフィール

同志社大学法学部卒業。  
器楽・独唱・合唱等の伴奏者として、また宗  
教音楽のオルガニストとして数々の演奏会に出  
演。86年2月ボストン交響楽団京都公演(マ  
ラー：交響曲第3番)の際、小澤征爾氏指揮に  
よる合唱練習に伴奏者として参加。86年6月、  
90年1月にジョイントリサイタルを開催。9  
1年1月、ソプラノとピアノによるジョイント  
リサイタルを開催予定。  
ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎  
孝、N. ジョルジ、H. ビュイグ＝ロジュの諸  
氏に師事。和声学を島田和昭氏に師事。  
現在は伴奏者として幅広く活躍する一方、合唱  
のための編曲も数多く手がけている。  
(社)全日本ピアノ指導者協会正会員。



メッセージ

今年もまたこうして、同志社グリークラブの皆さんと音楽のよろこびを  
わかち合うことができ、心から感謝しています。  
特に今回は、同志社グリークラブが初めて定期演奏会にお迎えする畑中  
良輔先生のステージで一緒にさせていただくことになり、身のひまになる  
思いがしています。今回は先生の御機嫌もグリーメンと気持ちをひとつ  
にして、素晴らしい大きな世界を描き出すことができれば、と思っ  
ています。  
長い間同志社グリークラブを愛して下さった福永陽一郎先生の急逝  
は、グリーメンはもちろんの事、私達のようなグリークラブと共に音楽を  
つくってきた多くの人々にとっても、あまりにも悲しい出来事でした。先  
生との最期のお別れの日、いろいろな方が今後の同志社グリークラブを心  
配して下さいの中で、私は、福永先生が何年前の定期演奏会のパンフレ  
ットに寄せられた言葉を思い出していました。それは、先生がスケジュール  
の都合がつかず、定期演奏会に出演されなかった時のもので、そのメッセ  
ージの中で先生は「自分が同志社グリークラブに何かを為したとすれば、そ  
れは、自分からなくても立派にいい音楽を作る事ができる合唱団に育てた、  
という事ではないだろうか」と書いておられました。  
本当に先生がいなくなってしまった今、先生のこの言葉を深く心に刺  
んで、これからもグリーメンと共にいい音楽を作るべく、努力を続けてい  
きたいと思えます。

NINO DANIELI

MISAKI SHOJI CO.LTD

Tokyo Office/Pola Aoyama Bldg. 7fl. 2-5-17, Minami Aoyama Minato-ku, Tokyo. Phone:03-403-4371  
Osaka Office/Nihon Seimei Midouji Bldg. 5fl. 4-2-4, Minami-Semba, Chuo-ku, Osaka. Phone:06-251-1171

# 宇宙時代の化学に挑む SPECIALTY CHEMICAL

瞬間接着剤  
**アロンアルファ®**

嫌気性固着剤  
**アロンボイト®**

屋上塗膜防水材料  
**アロンコート®**

粉体塗料  
**アロンパウダー**

アクリル系  
ポリマー

反応性高分子  
マクロモノマー

感光性樹脂  
**アロニックス®**

高分子凝集剤  
**アロンロック®**

脱酸素剤  
**バイタロン**

バイオ農薬  
**トアローCT**

無機イオン交換体  
**IXE イグゼ**

エンブラ相溶化剤  
**レゼダ・RESEDA**

太陽系宇宙から外宇宙へ飛び続けるボイジャーは、新しい21世紀の夜明けを象徴しています。ライフサイエンス、情報産業、新エネルギー開発など、新しい時代の生活・産業の展開は、化学分野での独創的技術開発がカギを握っています。瞬間接着剤アロンアルファをはじめとする化学製品の開発を通して、常に時代の明日を考え続けてきた東亜合成化学は、その技術力を生かして期待に応えようとしています。

**東亜合成化学** ©

東京都港区西新橋1-14-1 ☎03(597)7215(ダイヤルイン)  
支店/大阪・名古屋 営業所/富山・高松・福岡・広島・仙台  
工場/名古屋・徳島・高岡・坂出

クリスマス控えて、プレゼントの資金繰りにお悩みのみなさんには、ちょっとしたお話。

NEWS

熱帯地方の川に行くと、ルビーやサファイアが、沢山ころがっているのをご存じですか？それも、ある地域に限られたことではなく、赤道を挟んで南北回帰線に至るまでの随所で、ここでグッと身を乗り出した方へ。水を指すように恐縮ですが、もちろん、ジュエ



## 原石から宝石へ。

雨が侵食・運搬を繰り返します。その過程で、有機物を初めとした水溶性の高い物質の多くは、海中に運ばれ堆積。腐食性が極めて高く、比重の軽いアルミニウムも有機物同様に運搬され、ラテライトという泥湿土壌を河口部に形成。大体お解り頂けたでしょう、ルビーごろごろのワケが。

悲しい悲しい歴史が秘められているのです。無機質で、金属土特有の強い酸性質であるラテライト。当然植物の生育には適さず、不毛の地として長く見放された土地でした。部族間の抗争に破れ、土地を追われた人々が泣く泣く移り住む、悲しみの地でした。食料の生産は追いつかず、唯一の耕作方法である焼畑は土壌侵食を生んで住居をも奪い、飢えと病魔により幾多の命を飲み込む、絶望の地でした。ラテライトは朱色をしています。土地

リーショップに並ぶような代物ではありません。いわゆる「原石」という類いのものです。一体、どうしてこんな事が起きるのでしょうか。秘密はまず、「土」にあります。それから、熱帯の強烈な太陽と高温多湿な気候。そして、ルビー・サファイア・エメラルドといった宝石が、アルミニウムのちよつと形を変えただけのもの、ということ、この3つ。

ミ比率の特に高い、ボーキサイトといわれる「土」を多量の電気により分解精製して、造っているのです。日常のいたるところでアルミを必要としている今日、私たちの生活は、この「熱帯の土」に頼っていると、言っても過言ではないでしょう。どうです？アルミの素が無尺蔵に蓄積される熱帯地方のラテライト土。温暖な気候とあいまって、なにやら、パッションフルーツの茂る楽園を思い浮かべませんか？ところが現実裏腹、ここには、

の人は、皆、ここで息絶えた同胞の血が大地を朱に染めた」と信じて疑いません。その「不毛の地」が、ドラスティックな転換を見せるのは、20世紀に入ってからのこと。アルミ精製方法の確立・電力の安価供給実現により一転、無尺蔵にアルミニウムを生み出す「肥沃の地」へと変わるのです。今では、「無くてはならない土地」として、居住希望者も増え、周辺地域と比べて水準以上の生活を享受しているのは、運命の皮肉を感じずには

いられません。

手前みそながら、少しばかり薄学をご披露させて頂きました。申し遅れましたが、私たちは、アルミニウムとその関連製品を主力商品としている日本軽金属という会社です。このような話をなぜ、この場をお借りして、皆様にお話ししたかという、私たちの会社のたどった道程とアルミニウムは、少々似ている、などと感じていただくためです。

テクノロジーカンパニー  
**日本軽金属**

〒108東京都港区三田3-13-12 ☎03(456)9241

「From The Sunny South」～A Choral Suit on The Songs of Stephen Foster～

I. My Old Kentucky Home

The sun shines bright  
in my old Kentucky Home,  
'Tis summer, the darkies are gay,  
The corn top's ripe and the meadow's  
in the bloom,  
While the birds make music all the day.  
The young folks roll on the little  
cabin floor,  
All merry, all happy and bright:  
By'n by Hard Times comes a knocking  
at the door,  
Then my old Kentucky Home,  
good-night!  
Weep no more, my lady!  
Oh! weep no more to-day!  
We will sing one song  
For the old Kentucky Home,  
For the old Kentucky Home, far away.

ケンタッキーのわが家

夏の日をあびるケンタッキーのわが家よ  
黒人達は今日も元気だ  
コーンは実り、草原は花でおおわれ、  
鳥達は一日中鳴き声をかなでている  
子供達は小屋の中で遊んでいる  
陽気に 幸せに 生き生きと  
しかし楽しい日々は既に過ぎ去った  
おやすみ ケンタッキーのわが家よ  
乙女よ 泣かないでくれ  
おお! もう泣かないでくれ  
私はわが家のために歌おう  
遠いケンタッキーのわが家のために

II. Camptown Races

(1) De camptown ladies sing dis song,  
doodah! doodah!  
De camptown racetrack five miles long,  
Oh! doodah-day!  
I come down dah wid mah hat caved in,  
doodah! doodah!  
I go back home wid a pocketfull o'tin  
Oh! doodah-day!  
Gwine to run all night!  
Gwine to run all day!  
I'll bet my money on de bobtail nag,  
Somebody bet on de bay.  
(2) De long tail filly and de big black hoss,  
doodah! doodah!  
Day fly de track and they both cut across,  
Oh! doodah-day!  
De blind hoss sticken in a big mud hole,  
doodah! doodah!  
Can't touch bottom wid a ten foot pole,  
Oh! doodah-day!  
(3) Muley cow come on de track,  
doodah! doodah!  
De bobtail fling her ober his back,  
Oh! doodah-day!  
Den fly along like a railroad car,  
doodah! doodah!  
Runnin' a race wid a shootin' star,  
Oh, doodah-day!  
(4) See dem flyin' on a ten mile heat,  
doodah! doodah!  
Round de race track den repeat,  
Oh! doodah-day  
I win my money on de bobtail nag,  
doodah! doodah!  
I keep my money in an old tow bag,  
Oh! doodah-day!

草競馬

(1)キャンプトウンの女は歌う  
ドゥダー ドゥダー  
競馬場は一周5マイル  
オー ドゥダー デー  
オレはここへやって来た  
ドゥダー ドゥダー  
ポケット一杯の銀貨を獲るぞ  
オー ドゥダー デー  
夜も 昼も 駆けまわり  
オレは切り尾の馬にかけ  
だれかは鹿毛馬に  
(2)長い尾のメス馬やデカイ黒馬  
ドゥダー ドゥダー  
やつらは馬場を横切って走る  
オー ドゥダー デー  
盲目の馬が泥沼にはまる  
ドゥダー ドゥダー  
とっても深い底なし沼だ  
オー ドゥダー デー  
(3)年より牛がやって来た  
ドゥダー ドゥダー  
切り尾の馬が牛に突っこむ  
オー ドゥダー デー  
やつらはぐるぐるとびまわる  
ドゥダー ドゥダー  
あたまたに星をまわらせながら  
オー ドゥダー デー  
(4)今度は10マイル競争だ  
ドゥダー ドゥダー  
一周まわってもう一周  
オー ドゥダー デー  
切り尾の馬がレースに勝った  
ドゥダー ドゥダー  
オレは一気に金持ちだ  
オー ドゥダー デー

III. Beautiful Dreamer

(1) Beautiful Dreamer, wake unto me,  
Star-light and dew-drops  
are waiting for Thee;  
Sounds of the rude world  
heard in the day,  
Lulled by the moonlight  
have all passed away!  
Beautiful Dreamer queen of my song,  
List while I woo Thee, with soft melody;  
Gone are the cares of life's busy throng.  
Beautiful Dreamer awake unto me!  
Beautiful Dreamer awake unto me!  
(2) Beautiful Dreamer, open thine eyes,  
Nature is calling with soft harmonies.  
Close at your side love in my heart,  
I stand and wait till the dream  
portals part.  
Beautiful Dreamer fairest of fair,  
Waken and answer with tender replies;  
Close at your side love in my heart,  
I stand and wait till the dream  
portals part,  
Beautiful Dreamer so wonderfully fair.

夢路より

(1)わが君 目覚めよ  
星も滴も君を待つ  
昼間のさわがしさも  
月の光に静められた  
夢みるわが君  
わが調べを聞かずに  
日々の憂いも過ぎ去り  
わが君 目覚めよ  
わが君 目覚めよ  
(2)わが君 目覚めよ  
大自然が君を呼ぶ  
わが愛は胸に満ち  
君が夢のとけるのを待つ  
いとしきわが君  
目覚めて答えよ  
わが愛は胸に満ち  
君が夢のとけるのを待つ  
うるわしきわが君

IV. I Dream of Jeanie

I dream of Jeanie  
with the light brown hair,  
Borne like a vapor  
on the summer air.  
I see her tripping where the  
bright streams play,  
Happy as the daisies  
that dance on her way.  
Many were the wild notes her  
merry voice would pour,  
Many were the blithe birds  
that warbled them o'er; Oh!  
I dream of Jeanie  
with the light brown hair,  
Floating like a vapor  
on the soft summer air.

金髪のジェニー

わが夢に見し金髪のジェニー  
まるで夏の日のかすみのよう  
小川の岸辺をとびまわり  
あたりにはヒナギクが  
ほほえむ  
楽しき歌を口づさみつつ  
小鳥も共に歌う ああ!  
わが夢に見し金髪のジェニー  
まるで夏の日のかすみのよう

V. Old Folks at Home

(1) Way down upon the Swanee  
River, Far, far away  
There's where my heart  
is turning ever,  
There' where the old folks stay,  
All de world am  
sad and dreary,  
Ev'rywhere I roam,  
Oh! darkies, how my heart  
grows weary,  
Far from the old folks  
at home  
(2) All up and down de  
whole creation,  
Sadly I roam,  
Still longing for de old  
plantation,  
And for de old folks at home.

故郷の人々

(1)スワニー河の岸辺の先  
はるか遠く  
わが心のふるさとよ  
故郷の人々よ  
悲しくさびしい世の中を  
1人さまよえば  
おお! 黒人達よ  
何と悲しいことだ  
故郷を遠く離れて  
(2)この世の中のあちこちを  
さまよい歩けば  
故郷がとても懐しい  
故郷の人々が

VI. Oh! Susanna

(1) I came from Alabama,  
with my banjo on my knee,  
I'm gwine to Louisiana  
My true love for to see.  
Oh! Susanna,  
Oh don't you cry for me,  
I've come from Alabama,  
With banjo on my knee.  
(2) It rained all night the day I left,  
The weather it was dry,  
The sun so hot, I froze to death,  
Susanna, don't you cry.  
(3) I had a dream the other night.  
When everything was still,  
I thought I saw Susanna,  
A coming down de hill.  
(4) De buckwheat cake was  
in her mouth,  
De tear was in her eye;  
Says I, I'm coming from  
the south,  
Susanna, don't you cry.

おおスザンナ

(1)私はアラバマから  
バンジョーをもって  
恋人に会いにルイジアナへ  
おおスザンナ 泣かないでくれ  
私はアラバマから  
バンジョーをもって  
(2)1日中降る日もあったり  
日でりの日もあり  
暑かったりこごえたり  
スザンナ 心配しないでくれ  
(3)しかしある夜の夢の中  
特に静かな夜の時  
スザンナがあらわれて  
丘をかけおりてきた  
(4)彼女はソバ粉のケーキを  
口にして  
目にはいっぱい涙をうかべた  
私は会いに来たと言おう  
スザンナ 泣かないでくれ

VII. Old Black Joe

(1) Gone are the days when my  
heart was young and gay,  
Gone are my friends  
from the cotton fields away,  
Gone from the earth  
to a better land, I know.  
I hear their gentle voices calling,  
"Old black Joe!"  
I'm coming, I'm coming,  
for my head is bending low;  
I hear those gentle voices  
calling, "Old Black Joe!"  
(2) Why do I weep when my heart  
is free from pain,  
Why do I sigh that my friends  
come not again,  
Grieving for forms now  
departed long ago?  
I hear their gentle voices calling,  
"Old Black Joe!"

オールド ブラック ジョー

(1)若き日々は遠く過ぎ去り  
わが友は皆この世を去りて  
天国にて楽しく眠り  
かすかな声が私を呼ぶ  
オールド ブラック ジョー  
私も今に行く  
既に腰も曲がったゆえに  
かすかな声が私を呼ぶ  
オールド ブラック ジョー  
(2)なぜ涙が出るのか  
痛みもないのに  
なぜため息するか  
友はもう戻らないのに  
既にたった者の事を思い  
悲しみながら  
かすかな声が私をよぶ  
オールド ブラック ジョー

# 「ドイツオペラ男声合唱名曲集」

## 歌劇《魔笛》(モーツァルト)

### CHOR DER PRIESTER

O, Isis und Osiris, welche Wonne!  
Die düstre Nacht verscheucht der Glanz der Sonne.  
Bald fühlt der edle Jüngling neues Leben;  
Bald ist er unserm Dienste ganz ergeben.  
Sein Geist ist kühn, sein Herz ist rein,  
Bald wird er unser würdig sein.

### 僧侶たちの合唱

おお、イシスよ、オシリスよ、なんたる喜び！  
太陽の輝きが暗鬱な夜を追いやり  
やがて高貴なる若者は新しい生命をうけ、  
我々のためにつかえる身となる。  
彼の心は勇気に燃え、彼の情けは清らかである。  
やがて、彼も彼らとひとしき身となる。

## 歌劇《フィデリオ》(ベートーヴェン)

### CHOR DER GEFANGENEN

O welche Lust, in freier Luft  
Den Atem leicht zu heben!  
Nur hier, nur hier ist Leben!  
Der Kerker eine Gruft.

### 囚人たちの合唱

おお、なんといううれしさ  
自由の空気の中で息が出来るとは！  
ここだけ生命があるのだ！  
牢獄は悪場所だ。

### ERSTER GEFANGENER

Wir wollen mit Vertrauen  
Auf Gottes Hilfe bauen!  
Die Hoffnung flüstert sanft mir zu:  
Wir werden frei, wir finden Ruh.

### 第一の囚人

我らは信頼をもって  
神の加護にすがら！  
希望はやさしく話しかける。  
我らは自由になるだろう、我らは休息を見いだす。

### ALLE ANDEREN

O Himmell! Rettung! Welch ein Glück!  
O Freiheit! Kehrst du zurück?

### 他の囚人たち

ああ天よ！ 救いよ！ なんという幸福！  
ああ自由よ！ お前は帰って来るのか？

### ZWEITER GEFANGENER

Sprecht leise! Haltet euch zurück!  
Wir sind belauscht mit Ohr und Blick.

### 第二の囚人

低い声で話せ！ 気をつけろ！  
我らは見張りをされているのだ。

### ALLE

Sprecht leise! Haltet euch zurück!  
Wir sind belauscht mit Ohr und Blick.

### 全員

低い声で話せ！ 気をつけろ！  
我らは見張りをされているのだ。

### O welche Lust, in freier Luft

Den Atem leicht zu heben!  
Nur hier, nur hier ist Leben.  
Sprecht leise! Haltet euch zurück!  
Wir sind belauscht mit Ohr und Blick.

### なんといううれしさ

自由の空気の中で息が出来るとは！  
ここにだけ生命があるのだ。  
低い声で話せ！ 気をつけろ！  
我らは見張りをされているのだ。

## 歌劇《魔弾の射手》(ヴェーバー)

### CHOR DER JAGER

Was gleicht wohl auf Erden dem Jägervergnügen?  
Wem sprudelt der Becher des Lebens so reich?  
Beim Klange der Hörner im Grünen zu liegen,  
Den Hirsch zu verfolgen durch Dickicht und Teich,  
Erstarkt die Glieder und würzet das Mahl.  
Wenn Wälder und Felsen uns hallend umfängen,  
Tönt freier und freud'ger der volle Pokal!  
Jo ho! Tralalalala!

### 狩人の合唱

狩人の楽しみに供するものはこの世にあらうか？  
生命の杯は誰のため湧き出るのか？  
角笛のひびきを聞いて緑に身を横たえ、  
やぶや池を渡って鹿を追う。  
これぞ王者の喜び、男子のあこがれ。  
手鼓(てあし)はきたえられ、食事は旨い。  
森や岩山がひびきつつ我らを迎えるとき、  
酒杯はうれいなく喜びで高鳴る！  
ヨーホー、トララ！

Diana ist kundig, die Nacht zu erhellen.  
Wie labend am Tage ihr Dunkel uns kühl.  
Den blutigen Wolf und den Eber zu fällen.  
Der gierig die grünenden Saaten durchwühlt,  
Ist fürstliche Freude, ist männlich Verlangen,  
Erstarkt die Glieder und würzet das Mahl.  
Wenn Wälder und Felsen uns hallend umfängen,  
Tönt freier und freud'ger der volle Pokal!  
Jo ho! Tralalalala!

ディアナは夜の闇を明るくする術を知り、  
彼女のかがひは涼しく、昼もまた爽やかだ。  
食欲の緑の畑を爰来たる、  
血腥い獲をたおすこと。  
これぞ王者の喜び、男子のあこがれ。  
手鼓はきたえられ、食事は旨い。  
森や岩山がひびきつつ我らを迎えるとき、  
酒杯はうれいなく喜びで高鳴る！  
ヨーホー、トララ！

## 歌劇《タンホイザー》(ワーグナー)

### 2. Pilgerchor

Beglückt darf nun dich, o Heimat, ich schauen  
und grüßen froh deine lieblichen Auen;  
nun lass' ich ruhn den Wanderstab,  
weil Gott getreu ich gepilgert hab'.  
Durch Sühn' und Buß' hab ich versöhnt  
den Herren, dem mein Herze frönt,  
der meine Reu' mit Segen krönt,  
den Herren, dem mein Lied ertönt.  
Der Gnade Heil ist dem Büßer beschieden,  
er geht einst ein in der Seligen Frieden!  
Vor Höll' und Tod ist ihm nicht bang,  
drum preis' ich Gott mein Lebenlang.  
Halleluja [in Ewigkeit]!  
Halleluja in Ewigkeit!

### 「巡礼の合唱」

故郷よ、喜びもわれはなんじを見る。  
英しき草原にうれしくあいさつを送る。  
神に仕えて巡礼終えし今、  
旅の杖に休息を与えん。  
懺悔と悔恨により  
わが心捧げし主の許しを得たり、  
主はわが悔悟に恩寵を与えたり、  
わが歌は主のために響く。  
恩寵の救済は懺悔者に与えられたり！  
彼はいつの日か天国の平和に行く。  
地獄と死とは彼のおそれにあらず、  
故にわが命の限り神を讃えん。  
ハレルヤ！  
永遠にハレルヤ！

## 歌劇《さまよえるオランダ人》(ワーグナー)

### CHOR DER NORWEGISCHEN MATROSEN

(auf ihrem Schiffe)  
Steuermann! Laß die Wacht!  
Steuermann! Her zu uns!  
Hol He! Je! Ha!  
Hißt die Segel auf! Anker fest!  
Steuermann! Her!  
Fürchten weder Wind noch bösen Strand;  
wollen heute mal recht lustig sein!  
Jeder hat sein Mädcl auf dem Land, -  
herrlichen Tabak und guten Brantwein!  
Hussassahe!  
Klipp' und Sturm draus -  
jollohohe!  
lachen wir aus!  
Hussassahe!  
Segel ein! Anker fest! Klipp' und Sturm lachen wir aus!  
Steuermann, her! Trink mit uns!  
He! Hussahe! Hallohe!  
(Sie tanzen auf dem Verdeck, indem sie den Niederschlag jedes Taktes mit starkem Aufstampfen der Füße begleiten.)

### ノルウェーの水夫たちの合唱

(船上で)  
舵手どん、見張りはやめて、  
舵手どん、こっちへこいよ。  
ホー、へー、イエー、ハー、  
帆を巻きあげろ、錨をおろせ。  
舵手どん、こいよ。――  
嵐も浅瀬も怖くはないぞ、  
きょうは愉快に騒ごうじゃないか。  
陸にはめいめい船がいるし、  
うまい煙草だ、焼酎だ。  
フッサッサへー、  
浅瀬も嵐も、  
ヨロホーへー、  
突つてとばせ、  
フッサッサへー。  
帆をたたんだら、錨をかためろ。浅瀬も嵐も 突つてとばせ。  
舵手どん、見張りはやめて、舵手どん、こっちへこいよ。  
舵手どん、こいよ、いっしょに飲もう。  
へー、フッサへー、ハロー、  
(水夫たちは甲板で踊り、強拍にくると小節ごとに床を強く踏み鳴らす)

### CHOR DER NORWEGISCHEN MATROSEN

Juchhe! Da gibt's die Fülle!  
Lieb Nachbarn, habet Dank!  
Steuermann  
Zum Rand sein Glas ein jeder fülle!  
[Lieb Nachbar liefere uns den Trank!]

### ノルウェーの水夫たちの合唱

ばんざい、ばんざい、たくさんあるぞ。  
おーい、お隣りさん。すまねえなあ。  
お  
さあ、みんな、酒はなみなみ注げよ。  
お隣りさんがそっくり廻してくれんだ。  
ノルウェーの水夫たちの合唱  
「ハロホホホー、  
おーい、お隣りさん、口があつたら、  
起きてきていっしょに飲めよ。  
(このころから、オランダ船に人の気配がし)

### CHOR DER NORWEGISCHEN MATROSEN

Halloho ho ho!  
Lieb Nachbarn, habt ihr Stimm' und Sprach',  
'so wachet auf und macht's uns nach!  
(Von hier an beginnt es sich auf dem holländischen Schiffe zu regen.)  
(lachend)  
Wachet auf! Auf! Macht's uns nach!  
(Sie trinken aus und stampfen die Becher heftig auf.)  
Hussa!  
Steuermann! Laß die Wacht!  
Steuermann, her zu uns!  
Ho, he, je, ha!  
Hißt die Segel auf! Anker fest!  
Steuermann, her!  
Wachten manche Nacht bei Sturm und Graus,  
tranken oft des Meers gesalzes Naß;  
heute wachen wir bei Saus und Schmaus,  
besseres Getränk gibt Mädcl uns vom Faß!  
Hussassahe!  
Klipp' und Sturm draus -  
jollohohe!  
lachen wir aus!  
Hussassahe!  
Segel ein! Anker fest! Klipp' und Sturm lachen wir aus!  
Steuermann, her! Trink mit uns!  
He! Hussahe! Hallohe!  
(Das Meer, welches sonst überall ruhig bleibt, hat sich im Umkreis des holländischen Schiffes zu heben begonnen; eine dunkel-bläuliche Flamme lodert in diesem als Wachtfeuer auf, heftiger Sturmwind pfeift durch die Taus; - die Mannschaft, von der man zuvor nichts sah, hat sich beim Leuchten der Flamme belebt.)

### さあ！

舵手どん、見張りはやめて、  
舵手どん、こっちへこいよ。  
ホー、へー、イエー、ハー、  
帆を巻きあげろ、錨をおろせ。  
舵手どん、こいよ。――  
すごい嵐を いく夜も見張り  
しよっからい水も たびたび飲んだが、  
きょうの仕事は 飲めや歌えや、  
娘はこはよは 樽の酒。  
フッサッサへー、  
浅瀬も嵐も、  
ヨロホーへー、  
突つてとばせ、  
フッサッサへー。  
帆をたたんだら、錨をかためろ。浅瀬も  
舵手どん、こいよ。いっしょに飲もう。  
ホー、へー、イエー、ハー、  
(南は一面風吹いているのに、オランダ船の周  
る、蒼白い雲がまるでかがり火のように船か  
ューヒュー鳴らす。これまでまったく姿を)  
雲に隠されて話氣づいてくる)

### CHOR DER MANNSCHAFT DES FLIEGENDEN HOLLÄNDERS

Johohoe! Johohohoe! Hojohoe! Hoe!  
Hoe! Hoe! Hoe! Hoe! Hoe! Hoe!  
Huissa!  
Nach dem Land treibt der Sturm -  
Huissa!  
Segel ein! Anker los!  
Huissa!  
In die Bucht lauft ein!  
Schwarzer Hauptmann, geh ans Land!  
Sieben Jahre sind vorbei!  
Frei um blonden Mädchens Hand: -  
Blondes Mädchen, sei ihm treu!  
Lustig heut'! Huil  
Bräutigam! Huil  
Sturmwind heult Brautmusik,  
Ozean tanzt dazu!

### さまよえるオランダ人の船員たちの合唱

ヨホホエ、ヨホホエ、ホーエ、ホヨホエ、  
ホエ、ホエ、ホエ、ホエ、ホエ、ホエ！  
フーイ、サー！  
嵐が船へ吹きつける。  
フーイ、サー！  
帆をたたため、錨をおろせ。  
フーイ、サー、  
入江のなかへ、走りこめ。  
黒衣の船長、さあ陸へ  
また七年が すぎましたぞ。  
金髪の娘を お求めなさい。  
会った娘は、まごころつくせ。  
きょうはたのしい  
花婿の日だ。  
嵐は結婚の曲をかんで、  
海はそれにあわせて踊る。

Huil! Horch! Er pfeift! -  
Kapitän! Bist wieder da?  
Huil! «Segel auf!» -  
Deine Braut - sag, wo sie bliebt?  
Huil! «Auf in See!» -  
Kapitän! Kapitän! Hast kein Glück in der Lieb'!

あ、船長の笛の合図だ。  
船長、もうお帰りでずか。  
フーイ。帆をあげろ。  
花嫁さんを、どこへおいてきたんです。  
フーイ。さあ出帆だ。  
船長、船長、恋にはやっぱり運のないあなた。

Hahaha!  
Sause, Sturmwind! Heule zu!  
Unsren Segeln läßt du Ruh'!  
Satan hat sie uns gefeilt, -  
reißen nicht in Ewigkeit!  
Hohoe! Ho!  
(Während des Gesanges der Holländer wird ihr Schiff von den Wogen auf- und abgetragen, als ob es tanzt; furchbarer Sturmwind heult und pfeift durch die nackten Taus. Die Luft und das Meer bleiben übrigens, außer in der nächsten Umgebung des holländischen Schiffes, ruhig wie zuvor.)

ハハハ、――  
叫べ、嵐、ほえろ、嵐。  
びくともしない この船の帆だぞ。  
サタンが魔力を 封じたこの帆は  
未来永劫 破れはしない。  
ホホエ、ホエ！  
(オランダ人たちが歌うと大波が起こり、船はまるで木の葉のようにもたあそばれる。すさまじい暴風が狂い、むきだしの綱がヒューヒュー鳴る。ところがオランダ船の周囲以外は、空も海もこれまでどおり静かなまま)

(Die norwegischen Matrosen haben erst mit Verwunderung, dann mit Entsetzen zugehört und zugesehen.)

(ノルウェー船の水夫たちは、最初は何かとこいおかしがっていたが、やがて恐怖に震えながら耳をそば立て、この光景を見守る)

### CHOR DER NORWEGISCHEN MATROSEN

Welcher Sang! Ist es Spuk? Wie mich's graut!  
Stimmt an - unser Lied! Singet laut!  
Steuermann, laß die Wacht!  
Steuermann, her zu uns!  
[Ho! He! Je! Ha!  
Fürchten weder Wind noch Bösen Strand...  
Lauter!

### ノルウェーの水夫たちの合唱

なんという歌だ。幽霊か？ ぞっとする。  
おい、始めよう。おれたちの歌を。大声で。――  
舵手どん、見張りはやめて  
舵手どん、こっちへこいよ。  
ホー、へー、イエー、ハー、  
浅瀬も嵐もへつちやらさ……もつと  
声を上げろ。

### CHOR DER MANNSCHAFT DES FLIEGENDEN HOLLÄNDERS

[Huissa! Johohoe! Johohoe! Ho! Ho! Hohoe!  
(allein)  
Sause, Sturmwind! Heule zu!  
Unsren Segeln läßt du Ruh'!  
Satan hat sie selbst gefeilt, -  
reißen nicht in Ewigkeit!  
Johoe! Johohoe! Johohoe! Huissa! Johoe!  
(Die norwegischen Matrosen, durch den Sturm und das Toben des immer wilder gewordenen Spukes zum Schweigen gebracht, verlassen von Grausen übermanni ihr Verdeck, indem sie das Zeichen des Kreuzes schlagen; die Mannschaft des Holländers, als sie dies gewahrt, schlägt ein gellendes Hohngeulicher auf: - sogleich herrscht auf ihrem Schiffe wieder die frühere Totenstille, - dichte Finsternis ist wieder über dasselbe ausgebreitet, Luft und Meer sind ruhig wie zuvor.)  
(lachend)  
Hahahahahaha!

### さまよえるオランダ人の船員たちの合唱

[フイッサ、ヨホホエ、ヨホホエ、ヨホ、ホホエ！  
(単独で)  
叫べ、嵐、ほえろ、嵐。  
びくともしない この船の帆だぞ。  
サタンが魔力を 封じたこの帆は  
未来永劫 破れはしない。  
ヨホエ、ヨホエ、ヨホホエ、フイッサ、ヨホエ！  
(嵐と、手に負えなくなる一方の幽霊たちのために、口もきけなくなつたノルウェー船の水夫たちは十字を切つて、恐怖におののきながら甲板から逃げ出す。オランダ船の船員たちはそれを見ると、けたたましい声であざ笑う。船上にはすぐまたもとの静寂が戻ってくる。船はよたよた暴風の間に船みこまれ、空も海ももとの静けさをとりもどす)

### (笑いの声)

ハハハハハハ！

# 男声合唱組曲「富士山」

遠く大雪嶺からは黄鳥が  
使者になって花を御して渡って  
三つ(の)海を渡って

ああ  
夢みるわたしの  
富士の祭典

七色の霞は雪に映え  
七色の陽炎になってゆらゆらする  
鹿や猪や熊や馬  
人はあないか人もあるある  
へつたんの酒や女の舞  
標野の人も歌っている

夢みるわたしの  
富士の祭典  
昔からの楽器のすべは鳴り出すのだ  
種時きのように鳥はあつまい  
日本のすべての鳥はあつまい  
楽器といっしょに歌っている  
夢みるわたしの  
富士の祭典

I 作品第壹  
籠には桃や桜や杏さき  
むらがる花に蝶は舞ひ  
億萬の蝶は舞ひ  
七色の霞たなび

くると一面の花はさき  
くるといちめんの蝶は舞ひ  
くるといちめんの蝶は舞ひ  
くるといちめんの蝶は舞ひ

耳には行行子  
類にはひかり

その度に富士は近づくとほくに座る  
富士がはひる  
花環が圓を描くとそのなかに  
巧みな手さばきで花環をつくる  
それをなはにして縄跳びをする  
少女たちはつまごやしの花を摘んで  
知って物憂く眺めてゐた

II 作品第肆  
川面に春の光はまぶしく溢れ  
そよ風が吹けば光たちの鬼  
葦の葉のさざやき  
行行子は鳴く  
行行子の舌にも春のひかり  
土提の下のつまごやしの原に  
自分の顔は両掌のなかに  
ふりそよ春の光に  
知って物憂く眺めてゐた

III 作品第拾陸  
牛久のはての  
はるかのはての山脈の  
その山脈からいちだん高く  
黒富士  
大いなる  
はるか  
黒富士

折りの如き  
はるか  
黒富士

さへらんぼ色はだんだん沈み  
上々に  
金限取の  
雲一点  
(存在を超えた無限なもの)  
(存在に還へる無限なもの)  
祈りの如き  
はるか  
黒富士

## V 作品第貳拾壹

(宇宙線富士)

平野すれすれ  
雨雲屏風おもたへて  
その絶端に  
いきなりカッと  
夕映えの  
富士  
降りそそぐ  
靑藍ガラスの  
大驟雨

IV 作品第拾捌  
嗚呼  
まるで紅色の狼火のように  
豊旗雲は満々と燃え  
その下に  
スーンと黙す  
黄銅色の大存在  
まぶしいぬるい光に浮かぶ  
豊旗雲の  
その下の  
地軸の  
黄銅色  
どろどろか  
天の楽音

# 「ZIGEUNERMELODIEN」Op.55 (ジプシーの歌)

## I. Mein Lied ertont

Mein Lied ertönt,  
Ein Liebespsalm,  
Beginnt der Tag zu sinken;  
Und wenn das Moos, Der welke Halm  
Tauperlen heimlich trinken.

## 〈わが歌ひびけ〉

俺の歌が響く、  
愛の賛歌が  
日が沈みかけ、  
そして苔が、しおれた茎が、  
真珠の様な露を密やかに飲む

## V. Reingestimmt die Saiten

Reingestimmt die Saiten,  
Bursche, tanz' im Kreise!  
Heute froh,  
Und morgen?  
Trüb nach alter Weise!

## 〈弦を整えて〉

弦の調子を合わせろ、  
若い者は輪になって踊れ!  
今日は楽しく、  
そして明日は?  
昔風に鬱々とやれ!

Mein Lied ertönt  
Voll Wanderlust  
In grünen Waldeshallen,  
Und auf der Pussta weitem Plan  
Lass' frohen Sang ich schallen.

俺の歌が響く、  
流浪の喜びに満ち  
緑の森の広間で、  
そしてプスタの大平原で、  
俺は楽しい歌を響かせる

Nächster Tag' am Nile,  
An der Väter Tische  
Reingeschtimmt die Saiten,  
In den Tanz dich mische!  
Reingeschtimmt die Saiten!  
Bursche, tanz' im Kreise!

いずれナイルのほとり、  
御先祖様の仲間入り  
弦の調子を合わせろ、  
踊りに加われ!  
弦の調子を合わせろ、  
若い者は輪になって踊れ!

Mein Lied ertönt  
Voll Liebe auch,  
Wenn Haide stürme toben;  
Wenn sich zum letzten Lebenshauch  
Des Bruders Brust gehoben.

俺の歌が響く、  
愛にも満ちて  
荒野に嵐が狂い、  
末期の一息に  
兄弟の胸が膨らむ時

## VI. In dem weiten, breiten, luft'gen Leinenkleide

In dem weiten, breiten,  
Luft'gen Leinenkleide freier der  
Zigeuner als in Gold und Seide!

巾広くゆったりして、  
軽やかな麻の服を着れば  
金や絹をまとうよりジプシーは自由だ

## II. Ei, wie mein Triangel

Ei! Ei, wie mein Triangel  
Wunder herrlich läutet!  
Leicht bei solchen Klängen  
In den Tod man schreitet!

## 〈きげよトライアングル〉

どうだい、俺のトライアングルは  
何とすばらしく鳴ることよ!  
こんな響きを聞いたら  
人間、気楽に死んでゆけるさ!

Jaj! der gold'ne Dolman  
Schnürt die Brust so enge,  
Hemmt des freien Liedes  
Wanderfrohe Klänge;

そうよ、金の紐ジャケツなど  
窮屈に胸をしめつけ、  
旅の喜びを自由な歌が  
響かせるのを抑えてしま

In den Tod man schreitet  
Beim Triangel schallen!  
Lieder, Reigen, Liebe,  
Lebewohl dem Allen!

気楽に死んでゆける、  
トライアングルが響けば!  
歌よ、踊りよ、恋よ、  
みんなみんなお別れだ!

Und wer Freude findet an  
Der Lieder Schallen,  
Lässt das Gold, das Schnöde  
In die Holle fallen!

そして歌の響きに  
喜びを見出す者なら  
黄金なんてつまらぬものは  
地獄に叩き落せ!

## III. Rings ist der Wald

Rings ist der Wald so stumm und sill,  
Das Herz schlägt mir so bange,  
Der schwarze Rauch sinkt tiefer stets  
Und trocknet meine Wangen.

## 〈森はずかに〉

まわりの森は静まりかえり、  
俺の心は不安に高鳴り、  
黒い煙が舞い下り続け、  
俺の頬を乾かしちまう

## VII. Darf des Falken Schwinge

Darf des Falken Schwinge  
Tatrahöh'n umrauschen,  
Wird das Felsenest  
Er mit dem Käfig tauschen?

鷹の翼はタトラの山を廻って  
風に鳴るのがよいのだ  
鷹の岩間の巣を  
鳥籠と代えたりしようか

Ei, meine Tränen trocknen nicht,  
Musst andre Wangen suchen!  
Wer nur den Schmerz besingen kann,  
Wird nicht dem Tode fluchen.

ああ、俺の涙は乾きはしない、  
もう一人の頬を求めているのさ!  
悩みを歌にできるなら  
死を呪ったりはしないものだ

Kann das wilde Fohlen  
Jagen durch die Haide,  
Wird's am Zaum  
Und Zügel finden seine Freude?

野の若駒は荒野を自由に  
疾駆できるのだ  
勒や手綱に  
喜びを見い出せようか

## IV. Als die alte Mutter

Als dis alte Mutter  
Mich noch lehrte singen,  
Tränen in den Wimpern  
Gar so oft ihr hingen.

## 〈わが母の教えたまいし歌〉

年取ったおふくろが  
俺を教える時は、  
よく睫毛に  
涙をためていた

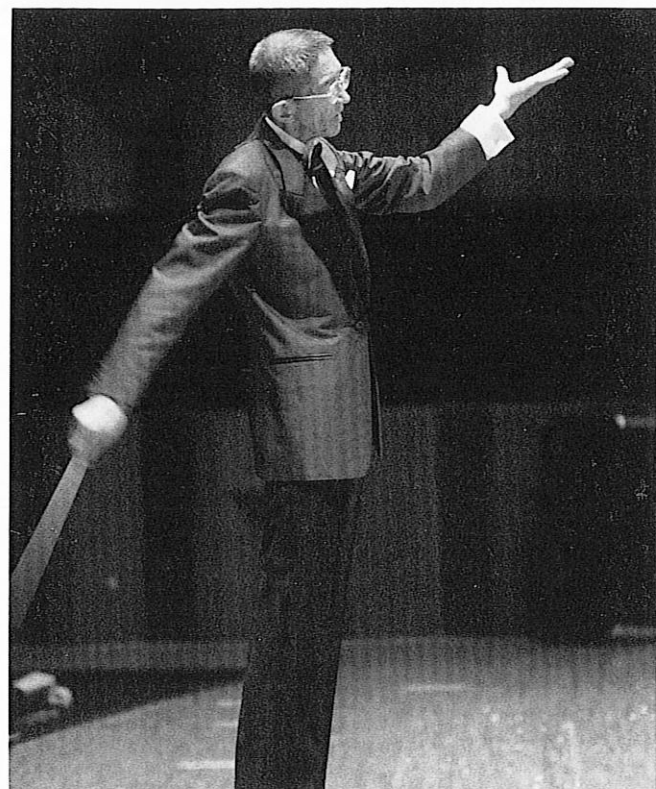
Hat Natur, Zigeuner,  
Etwas dit gegeben?  
Jaj! zur Freiheit schuf sie mir  
Das ganze Leben!

ジプシーよ、自然が何か  
お前に与えたか?  
そうよ! 自然は俺に  
一生涯の自由をくれたとも!

Jetzt wo ich die Kleinen  
Selber üb' im Sange,  
Riesel's in den Bart oft  
Riesel's oft von der braunen Wange!

今、俺が子供達に  
歌の稽古をしていると、  
涙が日に焼けた頬を伝い、  
髭を濡らす

# 「僕は同志社と共に生き、死ぬんだよ…」(’89 12月練習場)



歌をうたうのは  
楽しいことですよ。  
でも本当に楽しいのは  
自分の歌が美しい時です  
美しい歌をうたうのは  
易しくありません。  
でもそれができた時  
熱い感激が  
身体をつまみあげてゆくのがわかります。

## 福永陽一郎先生と定期演奏会の歴史

回	日時	曲目(作詩・作曲)
58.	S. 37. 12. 20	男声合唱のための「ミサ曲ハ短調」 F.Liszt
60.	S. 39. 11. 18/11. 23 11. 30/12. 4	「Messe Solennelle」 A. デュオバ 男声合唱組曲「わが歳月」 大中 恩 CHANSONNIER FRANCAIS
61.	S. 40. 11. 18/12. 3	「朔太郎の四つの詩」 清水 脩 「十の詩曲」による六つの男声合唱曲 D. ショスタコヴィッチ
62.	S. 41. 12. 5/12. 9	「北陸にて」 多田武彦 「New Moon」
63.	S. 42. 11. 24	「愛の詩集」 R. Strauss 黒人霊歌集
64.	S. 43. 12. 14	男声合唱のための「コンポジションⅢ」 間宮芳男 「十の詩曲」による六つの男声合唱曲
67.	S. 46. 12. 2	黒人霊歌集 「走れわが心」 大中 恩
68.	S. 47. 12. 10	「フリーメイソンカンタータ」 モーツァルト 「シューベルト男声合唱曲」より
69.	S. 48. 12. 10	「MESSE A TROIS VOIX」 A. カブレ 合唱組曲「オデコのこいつ」 三善 晃 ロバート・ショウ編曲による「ヨーロッパ民謡集」
70.	S. 49. 12. 6	「在りし日の歌」 多田武彦 「さすらう若人の歌」 G. マラー Negro Spirituals
71.	S. 50. 12. 1/12. 5	「MASS IN D」 op. 86 A. ドボルジャーク
72.	S. 51. 12. 14	「光る砂漠」 萩原英彦 男声合唱組曲「月光とビエロ」 清水 脩

回	日時	曲目(作詩・作曲)
73.	S. 52. 12. 14	「C. SAINT-SAËNS」から3曲 男声合唱とピアノのための「風の中で歌う空っぽの守り唄」 中村茂隆
74.	S. 53. 12. 20	男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」 湯山 昭 男声合唱曲「島よ」 大中 恩 ミュージカル「Man of La Mancha」より
75.	S. 55. 1. 8	「Mass in honor of Saint Sebastian」
77.	S. 57. 1. 23	「月下の一群」 南 弘明 Negro Spirituals
78.	S. 57. 12. 11	「MISSA BREVIS IN HON. ST. JOANNIS DE DEO In Bdur」 J. ハイドン (生誕250年記念)
79.	S. 58. 12. 17	「MASS IN D」 op. 86 A. ドボルジャーク
80.	S. 59. 12. 17/12. 21	「さすらう若人の歌」 G. マラー
81.	S. 60. 12. 20	男声合唱組曲「月光とビエロ」 清水 脩 レクイエム-バリトン独唱と男声合唱のための- 三木 稔
83.	S. 62. 12. 19	「Hiawatha's Wedding Feast」 J. Brahms 男声合唱とピアノのための「祈りの虹」 新実徳英
84.	S. 63. 12. 20	男声合唱組曲「わがふるき日のうた」 多田武彦 オペラ「Porgy and Bess」より G. Gershwin
85.	H. 1. 12. 16	男声合唱曲「岬の墓」 團伊玖磨 GREAT NUMBER FROM BROADWAY MUSICAL -ブロードウェイミュージカル名曲集-

### 黒沼 貴博 (TOP4)

思い出と言っても私は個人的に先生とお話をしたことがない。先生と言葉を交わすことのできる機会が何度か存在したが、それらを逸してきたことが今となって非常に悔やまれる。それでも私は福永先生の指揮のもとで歌をうたったという経験は合唱をする人々、音楽に接する人々にとって、無上の喜びであったと思う。特にそれを強く感じたのは第38回東西四大学合唱演奏会において先生の指揮のもと「月光とビエロ」を演奏した時である。その時の心境は至福であろう。たとえ先生と個人的にお話することができなくても、私のような凡人が先生の指導のもとで3年間も合唱ができたということだけで、それは生涯最高の心の宝となる。福永陽一郎先生、どうぞ心安らかに眠り下さい。ありがとうございました。

### 吉本 昌史 (Baritone 3)

福永先生との直接的なつながりは、三回生である自分にはわずか一年半余りであったが、約40歳という年齢の差を越えてこの私にとっても、この人の存在は「偉大な福永陽一郎」よりも「陽ちゃん先生」であり続けたと思う。陽ちゃん先生のタクトのもとで歌っている時、指揮されているのではなく、その長い腕の中に包まれて、先生の音楽への愛情を惜しみなく分けて下さった様な気がしていた。1ステージでも1曲でも多く陽ちゃん先生と一緒に歌っていたかった。

### 岸間 昭一 (TOP3)

「すべてが音楽」ということがよく福永先生について語られる。その場の雰囲気の中で最高のものを作ってくれた。一つの曲でも1回1回の練習、そしてリハーサル、本番が、すべてが違っていた。しかし、その変化にすべて反応することは同志社グリーンにとっては難しかった。練習中にやったこともないことがいきなり本番で出ると必ず失敗する。先生の指揮がいきなり止まって、そして飛び出すということもしばしばあった。残念だったかもしれない。しかし、失敗のない音楽というものは音楽ではないのかもしれない。こんなことも先生は教えて下さったのかもしれない。

### 織見 太郎 (BASS 2)

切っても切れない関係というものはいろいろあるが、陽ちゃん先生と同志社グリーンとの関係がまさにそうである。もちろん、どこの合唱団であっても、長年技術顧問等でお世話いただいている先生はみな、そんな関係といえるかもしれないが、陽ちゃん先生とはそれ以上であったと思う。先生という、単に雲の上の人と思ってしまうが、陽ちゃん先生が練習に来られた時の雰囲気はそれだけでは説明できない。先生に対する信頼感に満ち、タクトの動きと、部屋中の響きとの言葉に表せない融合があった。その先生から昨年だけで何度極上のほめ言葉をいただいたことか。同志社グリーンは自分が最も音楽を作りやすい団体、というような意味のことを言われたが、指揮者と団員とがこれ以上のところがこの世に存在するのだろうか。これは世界一幸せな合唱団だと言わずにはおれない。先生が亡くなってから、私は何度後ろをふりむいたのだろうか。

### 松田 仁 (BASS 4)

“他は悪くてもいい、自分達が練習する(音を取る)ピアノだけは良い所にしない、ピアノだけが僕らの頼りに出来るものなのだから。”  
僕が唯一、福永先生から直に怒られたときの言葉が確かこんなだったと思う。プロドウェイミュージカルの数少ないピアノ伴奏付きの練習の日でした。あの日は先生は選所をなさっており、かつてないほど具合が悪そうでした。階段をわずかに一階分だけ上がるにしても、数段のぼたぼた立ち止まり肩で息をさしていた先生でしたが、妥協を許さぬ厳しい目で僕を見つめていました。その時は先生の目を直視することができず、自分自身が痛く、そして悲しかったです。チーフであったSさんの叱責よりも先生のお言葉が今も忘れられません。僕にはあの「月光とビエロ」を指揮なさっていたときの至福の表情よりも、辛そういて、厳しいお顔を忘れることができません。

### 竹内 正 (Baritone 4)

今年一月、学生指揮者に就任してまでもない私に通の手紙が届いた。「竹内君、四連の曲目決めました。久しぶりに宗教曲ですが、肩の凝る音楽ではありません。楽譜同封のうえ、送ります…」この時、私は学指を務めるにあたって一抹の不安を抱いていたが、この手紙は何よりの励みであった。そして私はこの手紙を握りしめながら、「よし、やるぞ」と決意を新たにしたのである。しかし、それから二週間の2月10日、先生は天に昇られた。私はその報を聞いた時、この先どうしたらよいかわからなくなってしまった。でもその時もこの手紙は私を励ましてくれた。それは先生が手紙を通じて四連の、そしてその日以来、この手紙は先生の身代わりとなって私を励ましてくれている。



## いつまでも…陽ちゃんといっしょ

### 橋爪 慎二 (BASS 4)

第13回同窓演奏会の次の日、福永先生をお見送りした時のことです。駅に着くと、先生はすでに着いておられて、私達に、「昨日は良かったよ。大久保先生もほめてたね。あの人はめったなことではほめないから、相当なもんだよ。それとビエロの演奏が終わった後、一瞬、拍手もなくしてシーンとしたでしょ。あれはお客さんも音楽の中に入ってたからだ。お客さんが演奏が終わったから拍手をしなれば、と思うのは音楽の中に入ってない証拠だよ。だから昨日は拍手をするのも忘れるくらいお客さんも音楽の中に入ってたことだよ。とほくは思うけどね。」と話されました。後からきた部員にもニコニコした顔をされてました。その時の先生のお話とニコニコした顔が今でも印象に残っています。

### 林 克己 (TOP 2)

練習場に入ってこられた福永先生は細かった。「指揮者の先生」という肩書からうける、ある種の威圧感、その体を見る限りにおいて全く感じられなかった。確かに感じられなかったが、その存在感たるや、皆の注目を自然と集めてしまう程のものであった。私にとって先生は終始存在の塊であった。先生の魂は天に召されたのかもしれない。だが存在というものが物質化されるものであったなら、先生は未だ私の横におられる。たとえその存在感がふと途切れることがあったとしても、少なくとも舞台の上では先生は生きておられる。先生よろしくお願います。

### 小貫 岩夫 (TOP 4)

今年のお正月に藤沢に新年のごあいさつにお伺いした時、近くの中華料理屋に連れて行っていただいた。陽ちゃんと奥さん、我々が6人になったので、行きは奥さんの車でピストン輸送していただいたのだが、帰りはお酒が入ったこともあり、面倒くさくなってしまった。6人で乗っちゃえ、ということになったのだが、さてその乗り方が問題となった。奥さんが運転手なので、ここは当然陽ちゃんが助手席だろうと考えていると、陽ちゃんが「君が前に乗らなきゃだめだよ。」とおっしゃって、大きな僕を前にしていただいたのであった。結局、後部座席は陽ちゃん、学指T、副指Nが座り、その3人のひざの上に前内政のO村さんが横たわるとい、前代未聞の恐れおおい事態となってしまったのであった。(ちなみにO村氏は陽ちゃんにひざまくらをしていただき、酔いと無理な体勢から途中幾度か危険な状態に陥ったことを付け加えておこう。)

### 福永陽一郎追悼コンサート～陽ちゃんといっしょ～

東京 { 日時・1991年2月10日(日)  
場所・東京芸術劇場  
開場PM 2:20 開演PM 3:00

京都 { 日時・1991年2月11日(祝)  
場所・シルクホール  
開場PM 2:00 開演PM 2:30



そのくせ彼女は堅実です。

「ニューレタス倶楽部」はフレッシュに生きる女性のための積立型保険。国内外での傷害事故や賠償事故から携行品事故までワイドに補償します。

# ニューレタス倶楽部

安心、ひろげます。  
東京海上

東京海上火災保険株式会社 東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100 お問い合わせ先：お客様相談センター TEL (03) 212-6211 (代表)



橋本 英一 (32才)

CSK中部事業部主任  
1981. 同志社大学工学部卒  
同年 CSK入社  
自動車部品メーカー、官公庁担当SE  
1989.90. 新入社員6ヶ月研修講師を務める。  
現在、システムコンサルタントとして活躍中。



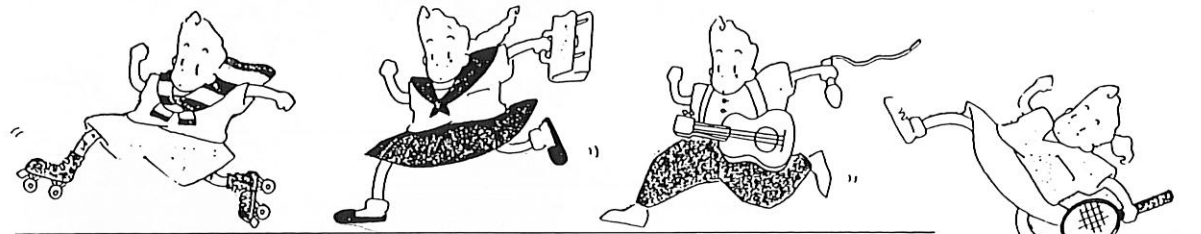
(1989年入社の中中部事業部汎用クラスの社員と)

情報化社会のほんとうの主役は人間です。  
コンピュータは整備されたステージ。  
ソフトウェアは練りに練られた脚本です。  
主役と脚本とステージが見事に調和するとき  
そこには想像もできない感動が生まれます。  
だから、CSKは、生まれたときから  
そして、これからも「人がすべて」です。



**CSK** 中部事業部  
名古屋市中村区名駅南1-24-30  
名古屋三井ビル本館11階  
TEL. 052(563)0581代

上場：1982年6月17日(東証一部上場) 本社：東京  
資本金：429億円(平成2年9月20日現在) 支社：関西(大阪)  
業種：情報サービス産業 支店：中部(名古屋)  
従業員数：6979名(平成2年4月現在) 西部(福岡)他  
平均年齢：28才 営業所：浜松・他



## 学生専科

## 合宿

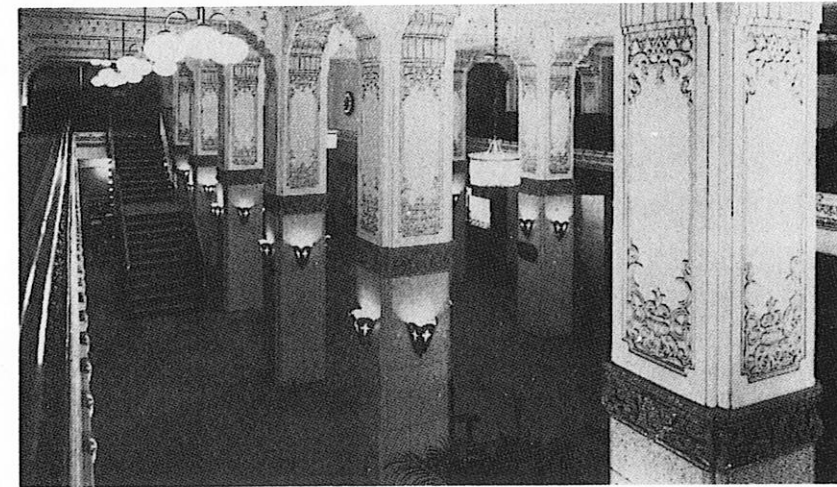
- ★青春フル回転合宿のスイッチON
- ★幹事さんバンザイ三唱まちがいなし

お申し込みは?

FREE **VAU** デスク  
フリーウェイ 京都府知事登録第6号  
●安心感100% ●満足感100%  
日本教育旅行  
京都市下京区烏丸七条上ル一筋目東入ル100m  
☎075(351)0405

## 数々の物語を見つめて。

京都ホテルが時を刻み始めたのは、鹿鳴館時代と呼ばれる明治二十一年。日本中が欧風化の波に洗われた「ハイカラ」の時代です。大津事件、大正・昭和の御大典など数々の歴史の舞台として名をとどめてまいりました。今後とも変わらないご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。



創業1888年  
**京都ホテル**  
京都市中京区河原町御池 ☎(075)211-5111

Date

Theme • Event • Manage etc.

3. MAR.

26~31

春合宿 (at ハチ北高原)

春合宿? 春合宿な、なんか1年の中で実は、いちばんおもしろい頃やなあ。何せ、四回生が卒業して、気分は一新されるし、適当な緊張感はあるし、気がねしてメンが食えへんこともないし、途中に野外ブレイクもあるし、夏とは大違いや。ホンマはこれこそが合宿の姿なんや。あ、それと、横の写真は最終日のカルテット大会で優勝したカルテットです。約束やからのせりけど、川口さんなんか、1・2位独占やで、ずっこい。来年は優勝してオレもりたいたい。頼むで川崎。

春合宿? 春合宿な、なんか1年の中で実は、いちばんおもしろい頃やなあ。何せ、四回生が卒業して、気分は一新されるし、適当な緊張感はあるし、気がねしてメンが食えへんこともないし、途中に野外ブレイクもあるし、夏とは大違いや。ホンマはこれこそが合宿の姿なんや。あ、それと、横の写真は最終日のカルテット大会で優勝したカルテットです。約束やからのせりけど、川口さんなんか、1・2位独占やで、ずっこい。来年は優勝してオレもりたいたい。頼むで川崎。



4. APR.

5~12

新歓・オリエンテーション

さあ! 春がやって来た。地獄のオリエンテーション期間が始まる。新しいスーツに身を包んだ新入生を他団体の敵から守り、清く正しい理想の学生生活へと導く。それが我々の使命なのだ。しかし、この情熱的な行為に対する世間の風あたりは鬼のように冷たい。よく断られるパターンは、これでもかとおごらせておいて、「やっぱり合唱はどうも…」アリアリヤ。最近の学生は何事にも偏見を持ちすぎて、勇気を出して挑戦するというハングリー精神がなさすぎる。それにしても「来たれ! 若人よ、同志社グリーは君を待つ。」というチラシに心を奪われ本当に入部するヤツもめずらしい。イヤイヤ、こういう純粋な心の持ち主こそ、同グリーに入るべき人なのだ。

さあ! 春がやって来た。地獄のオリエンテーション期間が始まる。新しいスーツに身を包んだ新入生を他団体の敵から守り、清く正しい理想の学生生活へと導く。それが我々の使命なのだ。しかし、この情熱的な行為に対する世間の風あたりは鬼のように冷たい。よく断られるパターンは、これでもかとおごらせておいて、「やっぱり合唱はどうも…」アリアリヤ。最近の学生は何事にも偏見を持ちすぎて、勇気を出して挑戦するというハングリー精神がなさすぎる。それにしても「来たれ! 若人よ、同志社グリーは君を待つ。」というチラシに心を奪われ本当に入部するヤツもめずらしい。イヤイヤ、こういう純粋な心の持ち主こそ、同グリーに入るべき人なのだ。



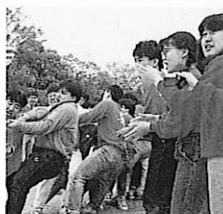
5. MAY.

3 (祝)

六連運動会

5月3日、今年も若人の祭典、六連運動会が華しく開催された。連覇を目指す同グリーは他団をキープと言わず大坂城公園グラウンドへ入り込んだ。午前の競技終了時点で綱引きなどで圧倒的パワーを見せた同グリーが首位を走っていた。愛情いっぱい手作りお弁当を頂いてのぞんだ応援合戦も南女さんと一回生の活躍により素晴らしいものとなり優勝の2文字がちっちゃった。が、しかしおからの雨にもたたられ糞子を崩した同グリーは3位という結果に甘んじてしまった。この屈辱を胸に来年こそは新たな闘志を燃やすグリーメン一同であった。応援してくれた南女さんありがとう♡ (特にHさん) (H回生・K (TOP))

5月3日、今年も若人の祭典、六連運動会が華しく開催された。連覇を目指す同グリーは他団をキープと言わず大坂城公園グラウンドへ入り込んだ。午前の競技終了時点で綱引きなどで圧倒的パワーを見せた同グリーが首位を走っていた。愛情いっぱい手作りお弁当を頂いてのぞんだ応援合戦も南女さんと一回生の活躍により素晴らしいものとなり優勝の2文字がちっちゃった。が、しかしおからの雨にもたたられ糞子を崩した同グリーは3位という結果に甘んじてしまった。この屈辱を胸に来年こそは新たな闘志を燃やすグリーメン一同であった。応援してくれた南女さんありがとう♡ (特にHさん) (H回生・K (TOP))



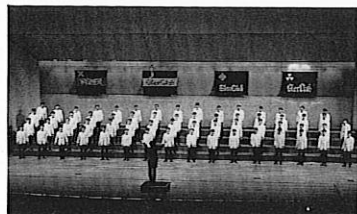
26 京都合唱祭

京都合唱祭は毎年5月下旬に京都府会館で開催され、今年で27回目の合唱祭を迎えた。この合唱祭は京都府合唱連盟の主催で行われ、我が同志社グリークラブもこの連盟の一員として参加し、今年も聴衆を魅了した。2日にわたって行われる合唱祭の第2日目には、各出演団体の代表によって、仮装大会が行われる。心ならずも筆者はその代表に選出されてしまった…。まァ、しかしこれも青春時代の良き思い出である。ともかく京都合唱祭は、数多くの合唱団の演奏が充分楽しめる京都の風物詩なのである。(H回生 K.K. (Bari))



6. JUN.

24 東西四大学合唱演奏会



今年も、合唱界のビッグイベント、「四連」が、大阪・フェスティバルホールで行われた。関西学院・同志社に加えて、早稲田・慶應の四団が集まったの2年ぶりの大阪四連である。

大阪出身の私にとっては、待ちに待った演奏会であった。思えば初めて四連を聴いたのは、2年前のこの大阪四連で、その時1回生だった私は、客席で先輩の演奏を聴いて、しびれるほど感動したのを覚えている。それから2年の今年、デュオパのミサを同じ大阪四連で唱い、最高の雰囲気を作り出して、多勢の人たちに感動を与えることができたのは、大変嬉しいことだった。パトリとして、初の大きなステージは、一生の思い出になるだろう。(H回生・K (TOP))

7. JUL.

祇園祭

千年の都、京都。京都と言えば何れともあれ、祇園祭。そうです。毎年7月17日は祇園祭りのクライマックス、山鉾巡行の日。グリークラブではいつのころからか毎年太子山の曳き手のアルバイトを引き受けており、今ではすっかり恒例の行事となりました。このアルバイト、一緒に祇園祭りに行く彼女のいないお寒いグリーメンに毎年大人気。みんな前期試験より絆の方が大切やで、と思っっている(?) 立派な京都の学生です。ところでやはりグリーメンは歌うのが本業、一番の楽しみは巡行出発前に絆の前で歌う「斎太郎節」です。今ではすっかり定番し、太子山町のちょっとした名物にもなっています。太子山のみなさん、来年もどうぞよろしく。



8. AUG.

7/30~5 演奏旅行

(in 田川・長崎・佐賀・福岡)

今年7月31日から8月5日までの日程で九州演奏旅行が行われた。田川・長崎・佐賀・福岡での演奏会と鳥栖でのお座敷というきついスケジュールにもかかわらず連日大成功をおさめた。H:「田川ではK単がモチモチや、長崎ではH笠が病気になるし、佐賀ではM田の地元だし、鳥栖ではM崎がこわすし、福岡ではYS田がソロするし、大成功やったな。」 N:「なんか説明的な文章だけ…ホンマよかったですよ。」 H:「うむ、うむ。」 H, N:「お世話になった皆さんありがとうございました。」

今年7月31日から8月5日までの日程で九州演奏旅行が行われた。田川・長崎・佐賀・福岡での演奏会と鳥栖でのお座敷というきついスケジュールにもかかわらず連日大成功をおさめた。H:「田川ではK単がモチモチや、長崎ではH笠が病気になるし、佐賀ではM田の地元だし、鳥栖ではM崎がこわすし、福岡ではYS田がソロするし、大成功やったな。」 N:「なんか説明的な文章だけ…ホンマよかったですよ。」 H:「うむ、うむ。」 H, N:「お世話になった皆さんありがとうございました。」



Date

Theme • Event • Manage etc.

9. SEP.

夏合宿 (at 志賀高原)

グリークラブの夏合宿は志賀高原で行われる。今年は外出禁止令が発令され、グリーメンは陽の光を浴びることなく、まさに食う・寝る・歌うの3拍子そろった健康的(?)な6日間を送ることができるのである。やはり1日3食をきちんと食べて夜は11時に寝て朝は7時に起きる。毎日10時間ものどから血を出しながら練習できる。これもすべて合宿のおかげなのだ。特に今年は最後の2日間が畑中先生の練習ということもあってみんな気分十分、日ごとに緊張感はクレシェンド。でもやはり夏合宿と言えば最終日。アレなのである。アレって一体…、口が裂けても言えません。あー、恍惚の時は近い。

10. OCT.

合コン・合ハイ

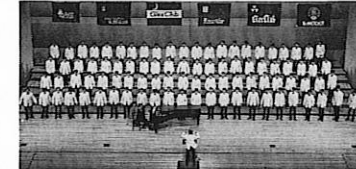


合コンに行く友達と新たな一面を見ることが出来ます。普段とは違って急にハイになっている奴もいます。まあいつもと変わらん人間もいますが…。これらも楽しくいきましょう。私は女子大との合コンには行きませんが、クラスコンパには行ったことはありません。なぜでしょう? それと終わった後にけこう残った料理を見て、もったいないと思うのは私だけでしょうか。まあいいですね。楽しい会話が酒のつまみ、すてきな出合いがあればお金のこともなんでも何い言いません。(ようそんなこと言うわ) 最後にコンパの幹事役の皆様、本当にご苦労様です。さあ、次はどこかのコンパや? (I回生・A (Bass)) <ウーン、確かに「うつつみ屋」は量が多すぎて困るな>

11. NOV.

3 (祝)

関西六大学合唱演奏会



十一月三日の文化の日、大阪のフェスティバルホールにおいて関西六大学合唱演奏会が開催されました。単独ステージはS.フォスターの作品を集めた「From The Sunny South」を、なぜか舞台の上では眼鏡をはずす竹内正の指揮、そして山本優子先生の伴奏で演奏し、九十人のグリーメンはフェスティバルホールにアメリカ南部の大草原の風を運んできたのである。(お! スザンナでは本物のバンジョーの音が聞こえたという噂も?) 又、このステージは、一回生にとってはデビューステージでもあり、一生の思い出に残ることだろう。合同ステージは平田勝先生をお迎えして「四つの仕事歌」を演奏したのである。

12. DEC.

24.

全同志社メサイア演奏会



「昨今、真面目にクリスマスを祝う行事が少なくなった」とお嘆きの貴兄に、「彼氏とロマンチックなイヴを過ごしたいわ」とお思いの貴女に、私達からの素敵なクリスマスプレゼントそれが、「全同志社メサイア演奏会」です。

今年も、指揮者に小松一彦先生をお迎えして、12月24日(日)に京都府会館第一ホールにて開催されます。同志社グリークラブ、同志社女子大学メサイア研究会、同志社交響楽団の奏でる音楽につられて、きっと天使達も降臨して来てくれることでしょう。木枯し舞う季節に、心暖まる一時を、また魅惑の音楽空間を我々と共に体験してみませんか。ヘンデルの「メサイア」という贈り物を用意致しまして、あなたのお越しをお待ちしております。(尚、当日の演奏はFM大阪により放送されます。)

1. JAN.

グリークラブ総会

総会についての原稿を頼まれた時、私は非常に困った。立場上変な事は書けないし、ましてや総会などはウツとハツタリとびかう場であるなどとは口が裂けても言えない。また総会などは、四回生が下級生をいじめる最後の時間と場であるなどとは、ましてや言えない。だから総会については、真面目な文章を書くのが一番だと思っていたら字数制限が近づいてきてしまった。よって結論を書くこと。「総会とはクラブにとって大切なもの。」ということになる。ああ、そうかい…。(H回生・U (Bari))

<お前、全然分かってへん! by 上回生一同>

2. FEB.

フェアウェルコンサート

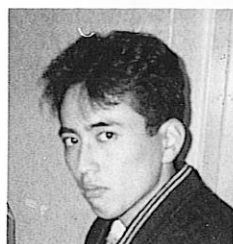


感傷と新たな出発の両面の色合いをもつコンサートである。四年間グリーライフを全うした卒団生にとっては最後のステージ、残る在団生にとっては、新体制への試金石となる大切なステージなのである。しかし、何とんでもグリーを去る卒団生の涙を見ると、思わず在団生も…という辛い日なのである。いろいろな思い出が頭をよぎり、心から「おつかれさまでした」と言い、固い握手を交わす。その3時間後、卒団生からさんざん飲まれたバートコンパの後、「もうはよ出ていけや!」と思った者は少なくない。因みに、筆者は二次会の「平八」へ無事にたどり着いたことがない。何にしても、最後までグリーは劇的なのです。



I部 “本物は凄い”

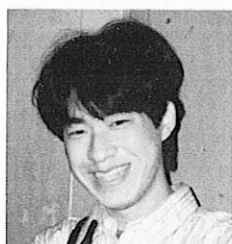
ざ・ぶれーめん ~命知らずの男達~



I回・TOP 朝間智昭 (パーマネ)

証言「いつもは、元気のないカレですが、パートコンパになるとひょろろと変な顔をする。10月の就職&卒園おめでとうコンパでは、ある上回生のモノマネをして非常にウケまくりました。それまでタブーとされ、誰もしなかった為です。でも、後のコトは僕らも知りません。彼がやったんだし、彼に責任をとってもらいましょう。でも、酔った彼が上回生にタメ口をきいたのは驚きました。(TOP1回生一同)

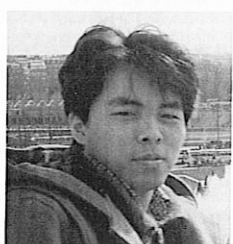
将来を嘱望されるカレであるが、あまりに早すぎた無礼のため、これからの道である。



II回・Bari 内橋貴志 (文通)

証言「彼は最近メキメキ、無礼を身につけてきました。夏合宿でIII回・M井さん(これも無礼で名を馳せている)が練習場のふすまを閉めたのに対し、「サンキュー」と答えたのです。その2秒後には、M井さんにボコボコにされていましたが、将来の幹事長候補としては、楽しみになっていました。彼いわく、「今はクラブのどんなことにも腹が立つ」そうです。上に立つ者が反骨精神を持つことはいいことです。でも、OBの接待は慎重に頼むよ」(2回生一同)

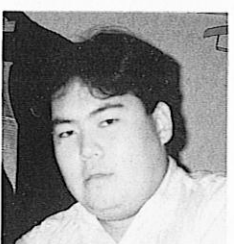
とりあえず、何もわかってないカレである。



III回・Bari 松井良太郎 (ステマネ)

証言「あれは、夏の九州演奏旅行、長崎のことやった。幹事長Jさんが、ステマネの松井に、「松井、入場のあと、そでの扉の開閉はどうするの?」ときいたんや。したら、たっぷり開をとって、「オー、それはな…」と答えはじめたんや。団員すべてが一瞬凍ってたな。でもいちばんさむかったんは、Jさんや。横におった会計のワシとしてはフォローしようがなかったっ、ノホホホ。」(III回・K)

こんな彼も練習後の連絡のときには、悪いことをしたみたいで、前小さくなってしゃべっているのである。



II回・Bass 田中佳之(ひら)

証言「私は今まで幾多の無礼をされてきました。「おまえ」だの「N浦」だの、挙げ句に、今年の新歓では、「カレ、3回生や」と1回生相手に紹介されてしまいました。この前はの前で、一緒に車に乗って話しかけたら「うるさい」と言われました。彼の私への言いが「僕が無礼できるのは、N浦さんとS木さんだけです」私を完全にナメているコイツとK学のNだけは一生許しません。」(六連マネ・N)

現在、数あるぶれーめんのなかでもKingの座に最も近い彼である。何と言っても「自分は無礼をしている」という意識なしに無礼できるのが強みである。このアホんだら!

以上、同グリの中でも特に強者ぶりを発揮する4人を紹介したが、最後に無礼の大御所、副幹事長風車氏にその極意について語ってもらいましょう。



King of Bleemenより

「何故、私が無礼について話さなくてはならないのか、大変心外である。写真の通り穏やかな面持ちの私が無礼について話すと、こんなコーナーにこのこと出て来ると、また大久保先生に叱られてしまいます。私を知らないお客様に少し言いますと、私はS.44.5.17生れの非常に気さくでお年寄りの好きな青年です。私は「アホ」と言いがちなMッちゃん(4回)の首をしめたことはありますが、自分は何で愛嬌があるんだと思っています。K学のD井も私を無礼だと思っていますが、それは勘違いです。全ては愛情表現なのです。仁さんのコーナー(四連)で、原稿をブチしたこともあります。それはふとした時のさげすみにその記憶が入ってしまったのです。OBの皆さん、僕は感謝です。」

II部 朝まで討論!!

「どーする どーなる この理由」

議題：〈グリーの練習をいかにして休むか〉

理由 BEST 10

1. カゼ・体調が悪い。
  2. 会社の拘束。
  3. マネージ。
- ここまでは、まあ納得もいく。
4. 田舎から親が来ていて大事な話がある。
  5. 電気・ガス・水道の工事がある。
  6. 兄弟が受験に来る。
- そろそろ怪しくなってきた。
7. 中・高時代、お世話になった人が来るので京都案内・見送りetc.をしなくてはならない。
  8. 生物の宅配便が届く
  9. 途中まで来ていたが、突然気分が悪くなる。
  10. どうしても抜けられないクラス、ゼミの集まりがある。

ホンマか、と首をひねりたくなるな。では、以上の理由について、適当な解説を出欠にうるさい右の3氏にきいてみましょう。

N「まあ、よくもこんなに理由を見つけたもんなら。」  
 Y「まったくだぜ。1、2位は仕方ないけど、後は信用できねえよ」  
 S「アリアリヤ。それはないっしょ。マネージだって忙しいんだべ。」  
 N「お前はどこの人間や。まあそんなことはどうでもええ。でも7位以下なんか必死で頭から絞らされた感じさえるな。」  
 Y「7位なんか出欠のとき理由言うのとはばかられるぜ。」  
 N「デートと言わんばかりやな。」  
 S「それを言うなら9位もだべ。」  
 Y「4位も似たようなもんだよ。8位を使った奴なんか、誰も信用しねえぜ。まあそいつにデートはありえないけど。」  
 S「でも、こうやって見ると結局同グリーの練習の厳しさがうかがえるというわけよ。」  
 Y・N「まったく。」  
 ホンマは、それが言いたかった企画なのかもしれない。では来年、又この企画ページでお会いしましょう。 to be continued.

この企画は一部フィクションです

SEKISUI

新技術で、21世紀をおもしろく。



大阪ハイム営業部 立野 昭彦

生活用品事業部 河南 全江

コンピュータ技術センター 原田 幸彦

総合研究所 大須賀 信

総合開発室 野復 美奈子

東京総務部 木村 優美子

積水化学工業株式会社

東京本社/(〒105)東京都港区虎ノ門3-4-7 TEL.(03)434-9055  
 大阪本社/(〒530)大阪市北区西天満2-4-4 TEL.(06)365-4045

ボクたち「YY(ワイワイ)プロジェクト」のメンバー。入社5年目までの若手社員で結成。「高感度な企業づくり」をテーマに、経営トップへの提言を目指して、16のチーム計156人が活動。明日のセキスイを担うプロジェクトのひとつです。

いつまでも大切にしたい・・・



今や、定番となった、CDから手軽なカセットテープまで、皆様のアルバムづくりをお手伝いいたします。



## フォンテックの楽しい音のアルバムをつくりませんか

- みなさまの卒業記念にノ学会・音楽発表会・合唱コンクールなど……
- そして、コンサート・ライブアルバムにノ音楽クラブ(ブラスバンド・合唱…)の定期演奏会・発表会にノ
- ライブまたはセッション録音そして持ち込みテープまであらゆる音源を使って、楽しい音のアルバムをつくることができます。

たとえば、卒業記念アルバムとしてCD300枚製作の場合……1枚2,500円よりつくれます。

(関西方面出張録音、編集、マスターリング、ジャケット印刷(1色)、音楽著作権(20曲分)、制作管理費、消費税込)

**fontec** 株式会社フォンテック 特販グループ  
〒167 東京都杉並区荻窪5-22-5

思いいたら今すぐお電話を!  
**☎ 03-393-0183**

あなたの街の玉姫殿

♡好き♡、と言ってから勝負。



あわい恋が  
あまい愛に色ずいたら…

ブライドスクエア  
**梅田 玉姫殿**  
大阪市北区鶴野町4-16  
TEL (06) 374-3333(代)

セールスプロモーション・PRの企画・デザイン・印刷



アイデアと技術で情報産業を担う

**双林印刷社**

〒601 京都市南区新千本通十条下ル TEL 681-7748代



## 神戸女学院大学コーラス部第31回定期演奏会

- I. Messe Brève 作曲/LAURENT LÉON
- II. 女声合唱組曲「秘密の花」 作詩/大手拓次 作曲/西村朗
- III. ミュージカル「オクラホマ」より
- IV. 川崎洋の詩による五つの女声合唱組曲「やさしい魚」 作詩/川崎洋 作曲/新実徳英

1991年3月4日(月) 開演PM6:30

尼崎市総合文化センター アルカイクホール

(連絡先) 土山友理 (075) 461-3183

男声合唱の魅力をたっぷりとお楽しみ下さい。

## 第59回関西学院グリークラブリサイタル

- 1月26日(土) 神戸: 神戸国際会館 午後5時30分開場・午後6時開演
- 1月27日(日) 大阪: フェスティバルホール 午後4時開場・午後4時30分開演

指揮/林雄一郎 北村協一 広瀬康夫 國司有香

(連絡先) 関西学院グリークラブホール TEL. 0798(52)6471

名誉顧問/遠藤 彰 顧問/澁谷昭彦 ヴォイストレーナー/大久保昭男

- 幹事長 松田 仁博
  - 副幹事長 武博
  - 内政 若野多可志
  - サブ 山田 貴博
  - 外政 黒沼 直明
  - 島村 篤志
  - 朝日 健次
  - 西浦 泰郎
  - 佐々木 博喜
  - 田村 常喜
  - 前川 武視
  - 川崎 尚城
  - 塩見 良太郎
  - 松井 恒次
  - 勝田 正之
  - 岩川 晃司
  - 小西 拓也
  - 中井 規之
  - 周藤 善彦
  - 加藤 善彦
- 演奏旅行サブ
  - 資料担当サブ
  - OB担当サブ
  - 文連常任委員
  - メサイア実行委員
- 学生指揮者 竹内 正
  - 学生副指揮者 永島 健一
  - Top-Part-Leader 小貫 昭一
  - サブ 岸間 祐一
  - Sec-Part-Leader 池田 祐人
  - サブ 吉野 喜元
  - Bari-Part-Leader 日笠 昌史
  - サブ 吉本 宮崎雄一郎
  - Bass-Part-Leader 松本 亮介
  - サブ

TOP TENOR

- 小貫 岩夫 (神4) 小樽 桜陽
  - 川口 晃司 (文4) 同志社
  - 岸間 昭一 (商3) 北野
  - 山田 学 (文3) 前橋
  - 林 克己 (文2) 山城
  - 村上 哲夫 (法2) 同志社香里
  - 伊藤 豪史郎 (商1) 藤島
  - 山田 憲成 (経1) 名大付属
- 新井 光明 (文4) 平塚江南
  - 黒沼 貴博 (文4) 大宮北
  - 西浦 泰郎 (文3) 丸亀
  - 吉田 正久 (文3) 西南学院
  - 川崎 武史 (経2) 長尾
  - 朝間 智昭 (商1) 南山
  - 三村 剛司 (法1) 高槻北
  - 中村 義行 (経1) 島本
- 岩田 正之 (商4) 堀川
  - 若野多可志 (神4) 富山東
  - 上谷 深 (工3) 三原東
  - 播磨 剛 (法2) 東大津
  - 松尾 敏之 (法2) 佐世保南
  - 福田 研二 (工1) 桐蔭
  - 岡 勇蔵 (商1) 明善

SECOND TENOR

- 池田 祐一 (文4) 一宮
  - 内田 敏文 (文4) 北陸
  - 中井 規之 (工3) 高槻
  - 加藤 善彦 (工2) 岡崎北
  - 小川 剛 (法2) 洛北
  - 鹿島 啓 (文1) 新川
  - 村田 知彦 (工1) 御影
- 鹿野 博志 (文4) 春日井
  - 吉野 暢人 (商3) 桃山学院
  - 朝岡 基雄 (経2) 岡崎
  - 勝田 恒次 (法2) 大津
  - 小川 真 (神2) 同志社国際
  - 鹿島 康則 (工1) 北千里
  - 南条 崇 (工1) 今治西
- 塩見 尚城 (法4) 北大和
  - 加藤 一 (法3) 北筑
  - 井上 建司 (文2) 阪南大学高
  - 小林 啓 (商2) 洛星
  - 田村 常喜 (神2) 名古屋学院
  - 森下 貴夫 (法1) 貿易学院
  - 八尋 秋彦 (法1) 洛北

BARITONE

- 日笠 喜元 (工4) 松江北
  - 島田 直明 (経4) 高槻
  - 吉本 昌史 (法3) 高山
  - 坂西 成和 (経3) 市立伊丹
  - 木村 拓郎 (法2) 北嵯峨
  - 内浦 貴志 (経2) 浦和市立
  - 近藤 博和 (工1) 明和
  - 谷本 啓 (商1) 新見
- 西川 智之 (文4) 清風南海
  - 竹内 正 (法4) 同志社香里
  - 風早 武博 (商3) 栃木
  - 佐々木 博 (文3) 大洲
  - 前田 勝視 (経2) 佐賀西
  - 藤川 淳史 (工1) 同志社香里
  - 佐々木 道哉 (法1) 豊岡
  - 辻 健三郎 (経1) 岐阜
- 大籠 歩 (文4) 嘉穂
  - 田村 昌宏 (商4) 新居浜西
  - 松井 良太郎 (工3) 浜松北
  - 神前 和正 (商2) 泉陽
  - 小倉 嘉夫 (文2) 池田
  - 林 正尚 (商1) 桐蔭
  - 竹内 秀樹 (経1) 大分上野丘
  - 山口 弘 (工1) 四条畷

BASS

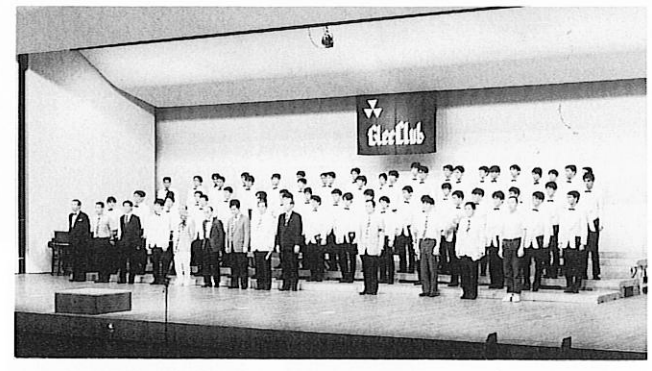
- 宮崎雄一郎 (経4) 市川
  - 松田 仁 (商4) 野山
  - 滝口 浩一 (経4) 生非
  - 朝日 健一 (法3) 津山
  - 永島 健之 (文3) 山山
  - 田中 佳之 (商2) 乙訓
  - 市之瀬 崇 (経1) 名古屋北
  - 光延 和芳 (経1) 八幡
  - 産賀 伸一 (法1) 落合
- 橋爪 慎二 (文4) 伊勢
  - 世古村 裕 (法4) 金沢二水
  - 田村 篤志 (神4) 洛南
  - 堀田 博 (法3) 菊里
  - 池田 保則 (法2) 東大津
  - 鐵見 太郎 (文2) 同志社香里
  - 岩本 光司 (工1) 春日丘
  - 奥村 健 (工1) 平塚江南
  - 打田 俊明 (文1) 久居
- 平野 勝久 (商4) 東浦
  - 竹内 亮介 (文4) 熊谷西
  - 松本 亮介 (工3) 同志社
  - 小西 拓也 (商3) 東大津
  - 中野 泰秀 (商2) 小松
  - 浅海 誠 (法1) 天王寺
  - 三原 卓弘 (工1) 京大附
  - 佐野 泰弘 (法1) 春日丘
  - 吉田 泰典 (法1) 市立鏡子

第86回 同志社グリークラブ定期演奏会 OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。同志社グリークラブ

大正15年卒 昭和3年卒	生田 定一 油谷 栄 今藤 武一 星野 三雄 福山 秀男 笹森 修 古澤 基生 柳原 一男 鶴原 太郎 大久保 衛 沖口 優 池田 秀隆 長島 俊司 山中和 三郎 福永 嘉彦 松本 勝男 武井 怜治 今西 政弘 都木 直文 西村 康雄 山田 譲治 山田 孝彦 吉田 庄之介 古川 悟一郎 本多 省一 門田 耕一	30年卒	赤井 和夫 中島 完治 佐々木 幹郎 渡谷 昭彦 野村 忠 小田 泰弘 橋原 忠和 堀 哲雄 森 泰一 足立 栄 南迫 卓一 飯山 一栄 村上 隆 浅田 高国 坪井 秀夫 森田 治夫 松村 時男 砂原 和彌 早嶋 英治 田村 量基 中村 豊太郎 植田 勝年 竹田 守孝 森本 義 森本 潔	37年卒	祖父江 重剛 前川 朋生 辰巳 孝次 山内 康浩 田村 慎也 後藤 久夫 溝口 岩木 畑中 宣彦 小室 邦彦 大熊 政次 土生 泰司 橋詰 裕史 滝沢 裕人 栗山 昭男 山根 磯 沢井 浩一 木村 正夫 館 和道 川上 栄 遠藤 好俊 藤谷 祥司 神谷 悦義 鈴木 博 春成 徹 田窪 徹 行夫 保則 大崎 保則	50年卒	小糸 徹 松村 俊明 石川 和雄 小林 郁夫 向村 淳 田野 耕樹 薄井 篤 小林 茂 岡田 正美 福垣 昌裕 森島 敏夫 林 宏之 福熊 裕之 大西 育生 大西 浩二 中山 篤 中山 一之 矢ヶ崎 義人 梶浦 爾 多々清 正晃 南 均 落合 楠木 楠木 潔 東原 幸生 松井 謙之 楠 敏也 峰山 珠磨 田中 紳一郎	61年卒	尾池 智治 三宅 厚志 高梨 純 大野 浩一 中村 洋 辻本 一郎 武内 和朋 中西 健 梅田 隆司 松本 千尋 野村 英也 古谷 勝一 新井 敦 田中 正 栗田 陽一 小川 博之 桑野 博 佐々木 昭憲 廣島 映一 山本 徹也	平成元年卒	伏村 淳二 山下 裕司 諸江 修 榎木 義博
-----------------	--	------	--	------	--	------	--	------	---	-------	---------------------------------

(印刷の都合により全ての方を掲載できませんでしたが、お詫び申し上げます)



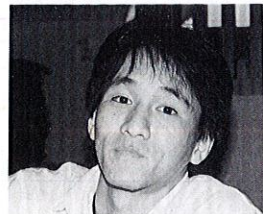
同志社校友会 田川クラブの皆様より当演奏会に相当額の寄付を頂きました。誌上ではございますが、厚く御礼申し上げます。同志社グリークラブ

同志社グリークラブ 第86回 卒業生のための送別演奏会

1991年2月16日(土) 5:30 P.M. 開演  
同志社大学会館ホール (入場無料)

# Special Thanks

## 〈編集後記〉



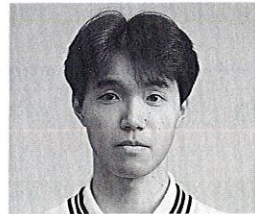
朝日 健次

9月の頭からこのパンフレットの企画・編集作業を始めてはや数ヶ月、本番まであと2週間余りとなった。仕事は早め早めに、と思いつつ一番ズルズルしてしまったのは自分だったような気がする。今となっては反省するばかり。(そんなに怒んなよ、S々木)とにかく定演のマネージメントに参加できたことはとてもラッキーだったと思います。御協力下さったみなさん、ほんとうにありがとうございました。



西浦 泰郎

この数カ月は、今まで経験した中でも本当に苦しく、辛い日々だった。しかし、一生忘れられない数カ月になるだろう。「Clever」よりも「Spirit」の方が重要なのだと教えてくれた。CMじゃないけど、「時間を忘れているときが、時間を大事にしている時」だと思ふ。最後に一緒に仕事をした朝日と佐々木、各マネージャーに、迷惑をかけた技系の人たちに、この演奏会を支えてくれた、すべての団員に、そして、いつも私を心配してくれている両親に心から感謝したい。Alles wieder gut!



佐々木 博

「街で、何か美しい物を見る。振り返る。その視線の先には…」そんな時間さえなかったような気がする。身も心も、もうどんなにボロボロになっても、ステージでの感動があればそんなことはどうでもいいことだ。俺も勇敢なジプシーの様に、苦悩を歌にかえることができればなあ。未筆ながら、額に汗しているオヤジ殿、愚かで未熟な私ですが頑張っております。最後に定演に御協力頂いた全ての方々にご心より感謝致します。

最後になりましたが、このパンフレット制作にあたり、快く原稿依頼に応じて下さった諸先生方、広告主の皆様、双林印刷の山田様、上田様、その他当演奏会に御尽力下さいました方々、そして、本日御来場戴きましたお客様に厚くお礼申し上げます。今後とも、同志社グリークラブを宜しくお願い申し上げます。

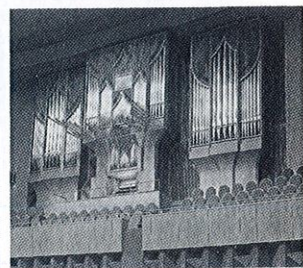
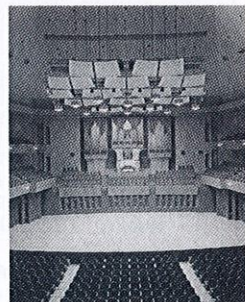
1990年 12月  
同志社グリークラブ  
マネージャー一同



# The Symphony Hall

なにかが変わる。  
予感が聴こえる。

- グランド・ホワイエ  
中央に吹き抜けを持つ二層の優美な空間。音楽へと続くプロムナードです。展示会や小さな集会もできます。
- アリーナ・シアター  
残響2秒、ピロードの響きがすべての席を覆いつくし、ステージと客席は一つに溶けあいます。
- オルガン  
スイス・クーン社製。54ストップ。オルガンを使う楽曲が理想の姿で演奏できます。



ザ・シンフォニーホール  
**ABC**

〒531-01 大阪市北区大淀南2丁目

ご利用のお問合せ  
06-453-1010  
入場券のお問合せ  
06-453-6000

**MURATA**  
(あなたをスカウトしています)



じまい「コーヒーを飲みたくないが。」

毎朝の一杯には、その日のような話が託されていなければならない。

朝きちんと起きて、きちんと出勤する。学生時代とはかなり違う社会人生活があなたを待ち受けています。が「やる気」の出る会社でなければ働くようになり「行く気」がしないのも当然です。ムラタは、朝のコーヒーがうまいと思える「やる気」の出る企業だと思っています。情報機器、物流システム、繊維機械、工作機械の四事業部門が結束して三年後売上高三、〇〇〇億円の一流企業となつて二十一世紀をめざします。来秋、新研究所を本社内に完成、また福利厚生施設の充実等、次世代への先行投資にも力を入れています。そして同時に社会とのかかわりを深める文化企業として、多彩なイベントプロモーションを積極的に展開して行きます。

- ヒューマントーク88 利根川進博士講演会
- ヒューマントーク89 カール・セーガン博士講演会
- ヒューマントーク90 ニコラス・ネグロポント教授講演会
- 全国都道府県対抗女子駅伝に協賛
- その他、全米ゴルフトーナメントとFM放送にスポンサー等

人にやさしいテクノロジー

**村田機械株式会社**

本社/〒612 京都市伏見区竹田向代町136 TEL075-672-8111(ダイヤルイン番号案内)  
事業所/東京・大阪・名古屋・福岡など国内70ヵ所、海外28ヵ所 工場/愛知・群馬・石川・滋賀・大分